

科目名	聖隷の理念と歴史
科目責任者	入江 拓
単位数他	2単位 (30時間) 必修 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	「天地の間にこの子の五尺の体を入れてやるところがない」。結核が日本中に蔓延していた昭和のはじめ、行くところを失った一人の青年を連れだした老人のこの言葉が聖隷の働きのはじめにありました。本科目では、聖隷にさまざまな形で関わってきた方々により、聖隷から何を学び・感じたのか、また何を継承していくべきなのかをお話いただき、本学の重要な構成員である学生一人ひとりが聖隷の理念と働きを理解する機会とします。
到達目標	1. キリスト教精神を基盤とした「生命の尊厳と隣人愛」について理解し、自分の言葉で説明ができる。 2. 「聖隷」の言葉の意味、聖隷のはじまりを自分の言葉で他の人に伝えることができる。 3. 聖隷の理念の表明としての聖隷グループの各法人の活動を知り、その働きの広がりについて自分の言葉で説明ができる。 4. 自らが聖隷クリストファー大学で学ぶ意味を考え、表現することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ> 各学部担当教員：入江拓（看護）、仲義之（社福）、鈴木文子（秋のみ）（社福）、竹本石樹（国際教育）、伊藤千紗（リハ）</p> <p>第1回：聖隷との出会い：オリエンテーション 入江拓（看護学部教授） 第2回：聖隷の教育が目指すもの 大城昌平（本学学長） 聖隷の理念とリハビリテーション 新宮尚人（リハビリテーション学部長） 第3回：聖隷から教えられたこと 藤本栄子（看護学部長） 聖隷の実践の社会福祉における歴史的意義 佐藤順子（社会福祉学部長） 第4回：隣人愛に生きた先輩に学ぶ（講演録画） 長谷川了（学校法人聖隷学園理事長）</p> <p>第5回：「隣人愛」を実践する 吉岡麻理（本学卒業生、元聖隷短大看護学科教員） 第6回：聖隷の理念と看護 入江拓（看護学部教授） 第7回：聖隷のはたらきとこどもたち 富永裕美（聖隷こども園めぐみ園長） 第8回：世界に広がる聖隷の働き 太田雅子（国際教育学部長） 第9回：長谷川保とディアコニッセと十字の園 鈴木淳司（社会福祉法人十字の園理事長）</p> <p>第10回：私と吃音とのかかわり 谷哲夫（リハビリテーション学部言語聴覚学科教授） 痛み治療を通しての学び 金原一宏（リハビリテーション学部理学療法学科教授）</p> <p>第11回：神戸聖隷福祉事業団のはたらき 加藤航（神戸聖隷福祉事業団神戸愛生園施設長） 第12回：看護学生時代の私から見た人間長谷川保 入江拓（看護学部教授） 第13回：牧ノ原やまばと学園のはたらき 長沢道子（社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園理事長）</p> <p>第14回：聖隷の働きと教会 森田恭一郎（河内長野教会牧師） 第15回：小さい者の一人を大切に作る社会を 稲松義人（社会福祉法人小羊学園理事長）</p> <p>※春semesterと秋semesterそれぞれ講師の都合等にて順番は異なりますが、同じ内容です。</p>
アクティブラーニング	本学ならではのユニークな科目です。聖隷の実践の積み重ねとそれに関わった人たちの生きざまから直接多くのことを感じ学んでください。感受性豊かな若い時に、自分が所属する集団がよって立つところの理念への理解を深め、その歴史から学ぶことは、今後の学び

	<p>や将来の専門職としてのビジョンのみならず、生き方や人との出会い方に少なからず影響を及ぼすものです。聖隷歴史資料館（5号館1階）の見学とレポート課題を必須とします。講師の先生方の話を聞き、積極的に聖隷歴史資料館を事前事後学習として複数回活用して感じたこと考えたことをレポートに反映させてください。</p>				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み状況 30%（成績評価の大前提です）、レポート 50%、歴史資料館感想カード 20%				
課題に対するフィードバック	その都度の質問、意見をリアクションペーパーやメールで頂ければ、可能な限りお返事いたします。				
指定図書	聖隷の理念と歴史：発行；聖隷クリストファー大学（初回講義にて配布します）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	夜も昼のように輝く、長谷川保著（図書館にもあります）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>聖隷で学ぶ学生として、また本学の大事な構成員として、聖隷歴史資料館の見学を義務付けています。図書館にある聖隷関係の関連図書で興味を惹かれるものを1冊は読み、聖隷の理念に関する理解を深め、上記レポート及び感想カードに反映させてください。目安時間 40 分。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	<p>本講義はキリスト教の信仰を強要するものではありません。安心して自分を振り返り、永遠なるものに目を向ける時としてください。入江研究室は 3403 (taku-i@seirei.ac.jp) です。あらかじめメールでアポイントをとっての来訪や、在室している場合の来訪はいつでも歓迎いたします。</p>				
実務経験に関する記述	<p>本科目は、聖隷の理念に基づく医療・福祉・教育の関連施設および、諸事業における実務経験者によりなされます。</p>				
メディア授業の実施について	<p>感染対策等にて 2 つの教室に分かれて同時双方向メディア授業を実施する可能性があります。</p>				

科目名	キリスト教概論
科目責任者	仲 義之
単位数他	2単位 (30時間) 必修 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	初めて聖書を学ぶものとして授業を実施します。 15回の授業を通して旧、新約聖書を概観し、キリスト教の中心的な教え・考えを学びます。また、そこから保健医療福祉教育の専門職者に必要な「生命の尊厳」と「隣人愛の実践」といった聖隷学園の建学の精神の源について学び、議論します。 授業は聖書を用いながら進めます。授業前に指定の聖書箇所を目を通し、必ず聖書を持参して臨んで下さい。参考図書も適宜引用しながら進めます。
到達目標	1. 「聖書」全般の基礎知識を修得する。 2. 「聖書」の重要な教えを修得する。 3. 建学の精神の意味、また大学礼拝に臨む意義を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 正典としての聖書 聖書の開き方 新約と旧約 礼拝における神と人間 (学内礼拝) イエス・キリストと教会について 成績と課題レポート、OHについて</p> <p>第2回：旧約聖書の理解のために (旧p 1 創世記1章~3章) 天地創造の記事について 人の創造・いのちについて 失樂園</p> <p>第3回：旧約聖書の理解のために (旧p 8 創世記6~9章) 神話的な記述から歴史へ (物語) ノアの箱舟からアブラハムからヨセフ物語へ。 裁きの問題から救済史へ。</p> <p>第4回：律法の教えから (旧p 126 出エジプト記20章1~21節 旧p 340 ヨシュア記1章) 十戒 モーセとアロン 出エジプト記から申命記 約束の地、イスラエルについて ヨシュア記と士師記</p> <p>第5回：旧約聖書の歴史 (旧p 421 『ルツ記』1~4章 旧p 456 『サムエル記上』17章31~58節) ルツからソロモン王まで ダビデ物語 神との契約 詩編 箴言 雅歌 コヘレトの言葉について 列王記 ローマ13章「剣の権力」</p> <p>第6回：旧約聖書の預言について (旧p 548 『列王記上』11章 旧p 1199 エレミヤ書12章) イスラエルの南北朝への分裂 列王記 (Kings) と歴代誌 (Chronicles) バビロン捕囚の前後と預言者たち エリヤ イザヤ エレミヤ ホセア</p> <p>第7回：新約聖書の理解のために (新p 102 ルカ2章1~21節 新p 163 ヨハネ1章1~18節) イエス・キリストの誕生と生涯について クリスマスにおける「言葉の受肉」 誕生預言 (旧p 1070 イザヤ7章1~6節) と成就 (新p 1 マタイ1章18~25節)</p> <p>第8回：イエスの奇跡と譬え話から (新p 6 マタイ5章~7章) ヤイロの娘と女 「山上の説教」「善いサマリヤ人」「放蕩息子」譬え話について</p> <p>第9回：イエスの十字架刑をめぐる (新p 153 ルカ22章~23章) マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書から (最後の晩餐から処刑へ) 贖罪</p> <p>第10回：イエスの復活をめぐる (新p 159 ルカ24章 新p 213 使徒言行録1章) 「イースター」4つの福音書から パウロの手紙における記録 死と埋葬から復活顕現、昇天へ</p> <p>第11回：弟子たち特に使徒パウロから (新p 214 使徒言行録2章 新p 229 使徒9章1~31節) 教会の誕生「ペンテコステ」 弟子たちの働き パウロの回心：迫害者から宣教者へ 割礼論</p> <p>第12回：キリスト教の教えとその展開。(新p 276 ローマ3章) 再び「贖罪・罪の赦し」の教え。コンスタンティヌスから国家との一体化へ。</p>

	<p>第13回：近代社会とキリスト教について（新p359 エフェソ5章21節～6章20節） ピューリタンの福祉の精神からカール・バルトやラインホルド・ニーバー、キング牧師等の20世紀におけるキリスト教神学まで 科学的知性や反キリスト教思想</p> <p>第14回：隣人愛について 聖隷の歴史と精神について 洗足の記録を中心に （新pヨハネ福音書13:1～20節旧p192 レビ記19:18 新p44 マタイ22:34～40節 新317 I コリント13章）</p> <p>第15回：授業の振り返りとまとめ 聖書が伝えるイエス・キリストのメッセージと、今後の社会について</p>				
アクティブラーニング	<p>講義中心の科目ですが、毎回考えや感想を文章化する（リアクションペーパー）事を課します。</p> <p>学生同士での議論をする場面もあります。常に自分なりの考えや意見を持って臨んで下さい。</p> <p>より深いキリスト教理解の為に、近隣の教会を訪ねてみることをお勧めします。</p>				
授業内の ICT 活用	リアクションペーパー等、授業中や課題提出に使用する可能性があります。				
評価方法	<p>1. 「キリスト教概論」の受講者は大学礼拝への出席が義務となります。</p> <p>2. 『夜も昼のように輝く』読書感想レポート（25%）、リアクションペーパー（25%）と定期試験（50%）＊再試験は行わない。</p>				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。				
指定図書	<p>『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行 『夜も昼のように輝く』長谷川保著・聖隷学園</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	『キリスト教史 はじめの一步』大村修文著 日本キリスト教団出版局 授業の中で随時紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	指定の聖書箇所を事前に読んでくること。 大学礼拝への出席 文献や辞書の活用。目安時間 40分。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	コロナ感染症への対策が必要となった場合は、適切に対応を取ります。				

科目名	キリスト教倫理
科目責任者	仲 義之
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	キリスト教倫理について考えを深めていく講義です。医療福祉に携わる者として、現代社会のさまざまな問題をどのように考えていったら良いのか、聖書の教えを基に「向き合い方」「考え方」を学びます。講義には適宜聖書を開きながら進めます。
到達目標	1. キリスト教倫理の基礎知識を修得する。 2. 自分で倫理的な判断ができる人になる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：キリスト教倫理とは何か（1） 導入：キリスト教と倫理の関係 そもそも「倫理」とは何か エスノスとエティック。善を行う民の形成。我々はどのような「民」か。</p> <p>第2回：キリスト教倫理とは何か（2）（出エジプト記 20 章） 「物語」と法の存在。神の救済行為としての十戒を中心に。罪の自覚という結論。</p> <p>第3回：キリスト教倫理とは何か（3） 人間の墮罪 失樂園 労働と出産と死について カインとアベル、カインの末裔とノアの箱舟、ソドムとゴモラ ヨシュア記からバビロン捕囚まで。裁きの問題。</p> <p>第4回：倫理に関する聖書の教えについて（4） 血といけにえ。及び性の問題。レビ記 17 章～18 章。 十字架のキリストの福音から帰結する倫理の土台。</p> <p>第5回：創造と人間 神から「支配」をゆだねられた人間 カント哲学の命題 神への応答と責任「神の顔」 特に環境問題について</p> <p>第6回：ニーチェのキリスト教批判について。 マルクス主義の無神論的キリスト教批判とその帰結。 ニーチェ『道徳の系譜』『ツァラトゥストラかく語りき』におけるキリスト教道徳批判。 「白く塗った墓」マタイ 23:27 「救い」ということ。</p> <p>第7回：「愛」という倫理について エロース フィリア ストルゲー アガペー 聖霊なる神と三位一体。アウグスティヌス 中世・宗教改革の神学者たち</p> <p>第8回：新しい社会の問題に立ち向かって 積極的倫理的決断。 聖隷の精神がもつ隣人愛とは 「善いサマリア人」 長谷川保『夜も昼のように輝く』『建白書』ヨハネ 13 章、I ペトロ 2:21</p> <p>*授業はキリスト教概論の既修を前提に進めていきます*</p>
アクティブラーニング	講義中心の科目ですが、毎回考えや感想を文章化する事（リアクションペーパー）を課します。 学生同士での議論をする場面もあります。常に自分の意見や立場を考察しつつ臨んで下さい。

	より深いキリスト教理解の為に、近隣の教会を訪ねてみることをお勧めします。					
授業内の ICT 活用	もちいる場合があります。					
評価方法	毎回のリアクションペーパー(50%)と論述式のテスト(50%)によって評価する。再試験は行わない。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。					
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	F・ニーチェ『道徳の系譜』(木場深定訳) 岩波文庫 授業の中で随時紹介します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	指定の聖書箇所を事前に読んでくること。 大学礼拝への出席 キリスト教関連の文献や辞書の活用。目安時間 40 分。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	研究室はキリスト教センター内にあります。 OH の時間等については初回の授業で説明します。					
実務経験に関する記述	なし					
メディア授業の実施について	コロナ感染症等への対策が必要となった場合は、適切に対応を取ります。					

科目名	哲学				
科目責任者	長田 怜				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春				
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	哲学の基本的な考え方を学びます。特に「①生きることとはどういう体験なのか」と「②よりよく生きるための心の働きにはどういうものがあるか」を考える手立てを与えます。①は生の哲学、②は心の哲学で扱われるテーマです。さらに、①と②をもとにして、「③よりよい生に貢献するよりよい医療とは何なのか」を考えるための視座を与えます。				
到達目標	1. 生きることへの哲学的なアプローチの仕方と内容を理解すること。 2. そのうえで、特に医療への哲学的なアプローチの仕方と内容を理解すること。 3. さらに、1と2をもとに自分の哲学的な考えをまとめられること。				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション 哲学とは何か 第2回：幸福の哲学 幸福とは何か</p> <p>第I部：生の哲学 第3回：実存哲学 生きるとはどこが独特なのか 第4回：現象学 私たちは何をどう体験しているのか 第5回：変容的経験 人生の大転換点をもつ意味とは何か 第6回：物語の哲学 誰かに何かを語ることはどういう意味をもつのか</p> <p>第II部：心の哲学 第7回：合理性の哲学 合理的に生きることとはどのようなものか 第8回：感情の哲学 生きることにとって感情はどういう意味をもつのか 第9回：直観の哲学 決めることにとって直観はどういう意味をもつのか 第10回：他者認識論 他者の心を認識するとはどういうことか</p> <p>第III部：医療哲学 第11回：病気の哲学(1) 病気とは何なのか 第12回：病気の哲学(2) 病気とは何なのか 第13回：ケアの哲学(1) ケアすることはどういう意味で大事か 第14回：ケアの哲学(2) ケアすることはどういう意味で大事か</p> <p>第15回：まとめ 最終的にどこまで到達できたか</p>				
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションを取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	リアクションペーパー50%、期末試験 50%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの内容は授業内でのコメントやディスカッションの対象とする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	授業中に随時紹介する。				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	配布資料で予習・復習する。目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付ける。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について					

科目名	文学				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋				
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	本授業では、作家の対談集を中心に、文学に対する作家の思い、芸術性を学ぶ。また、作家自身から文学の中で生きることを伝えてもらうことで、日本人としての在り方について学び、そこから日本独自の文化というものをも探してみたい。さらに、多様なものの見方を学ぶことで、これからの自分の在り方を見つめ直す機会にしていきたい。				
到達目標	1. 文学に対する各作家の立ち位置を知ること、文学とは何かを概観する。 2. 文学を概観しつつ、日本独自の文化について理解する。 3. 作家の多様なものの見方から、自分の在り方を見つめ直す。				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：本授業の説明・対談集の読み方（対談の比較論を中心に） 第2回：河合隼雄の文学観を知る（「読書のよこび、語り合うたのしみ」を中心に） 第3回：山田太一と文学（『遠くの声を探して』を中心に） 第4回：安部公房と文学（『カンガルーノート』を中心に） 第5回：谷川俊太郎と文学（『こころの処方箋』を中心に） 第6回：渥美饒児氏から聞く（三島由紀夫の世界観） 第7回：渥美饒児氏から聞く（文学と私） 第8回：白洲正子と文学（『いまなぜ青山二郎なのか』を中心に） 第9回：沢村貞子と文学（『寄り添って老後』『老いのみち』を中心に） 第10回：遠藤周作と文学（『王の挽歌』を中心に） 第11回：多田富雄と文学（『免疫の意味論』を中心に） 第12回：富岡多恵子と文学（『とりかへばや』を中心に） 第13回：村上春樹（『ねじまき鳥クロニクル』を中心に） 第14回：村上春樹の文学観をさぐる 第15回：文学を読むとは—これからの自分の在り方を知る</p>				
アクティブラーニング	○本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。				
授業内の ICT 活用	Webclass を活用し、出席管理、授業前アンケート、リアペの提出、授業時の資料等を提供する。				
評価方法	評価は 100 点を満点とし、評価方法ごとの点数配分を「レポート 50%、課題提出物（リアクションペーパー等）50%、計 100% なお、再試験は行わない。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・課題に対するフィードバックは、次の授業中に行う。				
指定図書	河合隼雄対話集 こころの声を聴く 新潮社				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別

					／備考
事前・事後学修	前もって、テキストを配布するので、指定した部分をあらかじめ読んでくること。目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について					

科目名	心理学					
科目責任者	長峰 伸治					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春・秋					
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎					
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。					
科目概要	人間理解をする上で必要な心理学的知識の基礎について講義を行う。心理学の領域は多岐にわたるため、代表的な各領域の基礎的な事柄について、具体的事例を通して人間理解の基本的な視点・理論を紹介する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対人援助の専門職として人間理解（自己理解・他者理解）をする上で必要かつ基礎的な心理学的知識を修得する。 2. 自分や他者を理解することや人間の心に対する興味・関心を高める。 3. 心理学的知識を得ることで、自分自身や他者との関わりについて考える。 					
授業計画	<p>第1回 心理学とは何か</p> <p>第2回 感覚・知覚・認知1：感覚・知覚の一般的特徴と個人差</p> <p>第3回 感覚・知覚・認知2：知覚の体制化、錯視</p> <p>第4回 感覚・知覚・認知3：知覚の恒常性、文脈の効果、選択的注意</p> <p>第5回 人格・性格1：性格検査①（エゴグラム）</p> <p>第6回 人格・性格2：性格検査②（20答法）</p> <p>第7回 人格・性格3：性格検査③（性格の理解）</p> <p>第8回 人格・性格4：性格検査の種類</p> <p>第9回 人格・性格5：性格理論、気質</p> <p>第10回 記憶1：記憶のメカニズム</p> <p>第11回 記憶2：短期記憶、長期記憶</p> <p>第12回 記憶3：忘却、目撃証言</p> <p>第13回 学習理論1：条件づけ</p> <p>第14回 学習理論2：観察学習、動機づけ</p> <p>第15回 適応：ストレスとコーピング</p>					
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・心理検査(性格検査)を実際に回答・結果の整理をしながら、心理検査の特徴を学ぶ。 ・ストレスチェックリストを実際に回答・結果の整理をして、自らの状況を知る。 					
授業内の ICT 活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。					
評価方法	定期試験70%、授業への取り組み状況30%(リアクションペーパー等)					
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問					

	<p>や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>長峰伸治 (看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。</p>
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	倫理学				
科目責任者	長田 怜				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋				
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	倫理学の基本的な考え方を学びます。特に「①倫理的な善悪の基準をどう与えるか」と「②医療における倫理的問題にどうアプローチするか」を考える手立てを与えます。①は倫理学の基礎理論、②は医療倫理学で扱われるテーマです。これらの考察を通じて、人生と医療における倫理的問題に気づき、分析し、判断し、ケアするための基盤を与えます。				
到達目標	1. 倫理的な善悪に対する基礎理論のアプローチの仕方と内容を理解すること。 2. 医療における倫理的問題と、それに対する複数の立場を理解すること。 3. さらに、1と2をもとに自分の倫理的な考えをまとめられること。				
授業計画	<p>授業計画 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： イントロダクション 倫理学とは何か</p> <p>第I部：倫理学理論</p> <p>第2回： 義務論 理性をもった人間としての義務を重視する立場</p> <p>第3回： 功利主義 全体の幸福を重視する立場</p> <p>第4回： 徳倫理学 有徳であることを重視する立場</p> <p>第5回： ケアの倫理学 個別の相手へのケアを重視する立場</p> <p>第6回： リベラリズム 個人の自由を重視する立場</p> <p>第7回： コミュニタリアニズム 共同体の役割を重視する立場</p> <p>第II部：医療倫理学</p> <p>第8回： 医療倫理学とは 医療倫理学の意義・内容・原則とは何か</p> <p>第9回： 道徳的地位 道徳的な義務の対象となる存在をどう特徴づけるか</p> <p>第10回： 生殖技術 人工授精、体外受精、代理母などの倫理的問題とは何か</p> <p>第11回： 人工妊娠中絶 人工妊娠中絶は許されるか、どういう場合に許されるか</p> <p>第12回： 脳死・臓器移植 脳死は人の死なのか、臓器移植の倫理的問題とは何か</p> <p>第13回： 安楽死・尊厳死 安楽死・尊厳死は許されるか</p> <p>第14回： 事例検討 具体的な医療事例でどのような倫理的判断をするか</p> <p>第15回： まとめ 最終的にどこまで到達できたか</p>				
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションを取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	リアクションペーパー50%、期末試験 50%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの内容は授業内でのコメントやディスカッションの対象とする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	授業中に随時連絡する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

事前・事後学修	配布資料で予習・復習する。目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付ける。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について					

科目名	ジェンダー論				
科目責任者	須藤 八千代				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春				
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	男性、女性という性別ではなくジェンダーの視点から、性別や性につなげて社会構造を全体的にとらえる力をつける。 指定テキストの章立てに沿ってジェンダーとは何かを学ぶが、毎回、新聞、映画、絵本、メディア情報など、その時の問題に絡む資料を活用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダーという概念をつかむ。 2. ジェンダーの視点から自分の問題を認識し解決することができる言葉と知識を得る。 3. ジェンダーの視点を持つ医療福祉専門職の基盤をつくる。 4. さまざまな外部講師と共により広い知見を得る。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ジェンダーってなんだ？その1 第2回：絵本で考えるジェンダー：三浦康子（菊川市やなぎ文庫代表） 第3回：ジェンダーってなんだ？その2 第4回：つくられる「女の子」「男の子」その1 第5回：色から考えるジェンダー：稲葉信子（TC カラーセラピスト・JADP 認定上級心理カウンセラー） 第6回：つくられる「女の子」「男の子」その2 第7回：ジェンダー化の装置＝学校？その1 第8回：ジェンダー化の装置＝学校？その2 第9回：他者のまなざしの中の自分その1 第10回：これからの世界とジェンダー：方しおん（サステナビリティ・コンサルタント） 第11回：他者のまなざしの中の自分その2 第12回：大人になっていく過程で出会うジェンダーその1 第13回：大人になっていく過程で出会うジェンダーその2 第14回：ライフキャリアの実現に必要なこと 第15回：「浜松」で考えるジェンダー：杉山映子（浜松市男女共同参画センター相談室長）</p>				
アクティブラーニング	授業の後半はグループ・ディスカッションでお互いの考えを知る。毎回、リアクションペーパーを提出する。				
授業内の ICT 活用	Mentimeter ソフトを活用する講師の授業もあります。				
評価方法	出席率、グループ・ディスカッションなど授業に参加する姿勢を評価する（40%） 授業の最後に2000字でレポートを書く（60%）				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーをフィードバックし次の授業を構成する。				
指定図書	『十代のうちに考えておきたいジェンダーの話』堀内かおる、岩波ジュニア新書 指定図書は必ず購入してください。授業はテキストにそって進められます。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別

					／備考
ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた	佐藤文香、一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同	明石書店	1500	9784750348520	
事前・事後学修	事前に授業の順番に沿って指定テキストを読んでくる。事後には新聞、テレビ、インターネットなど多様なチャンネルから関連情報をキャッチする。(15回)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に、もしくは教務事務センターを介して受け付ける。				
実務経験に関する記述	元横浜市ソーシャルワーカー。浜松市男女共同参画センター相談室スーパーバイザー、東京都他相談事業研修講師。				
メディア授業の実施について					

科目名	生活福祉文化論
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	保健医療福祉には隣接する学問が多くあり、その考えと実践は、単に専門分野だけでなく、生きることすべてに関わる問題です。本講座では、多くの実践活動を学ぶことを通して、「生活」「福祉」「文化」の基本となる「Wellbeing (よい存在)」について考え、実践を創造する力を育てていきます。
到達目標	1. 対人援助・社会支援の対象を多角的に理解し、それぞれのニーズや背景要因を理解する。 2. 「生活」「福祉」「文化」のものの見方を習得し、建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」について考察できる。 3. 物事をさまざまな側面から理解し、高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当者>坂本道子</p> <p>授業は、視聴覚教材を含め、多くの実践に触れながら以下のような内容で実施します。</p> <p>1. 「生活福祉文化」とは何か——「知る」ことから生まれる工夫 第1回：リエンション：授業の進め方、多角的なものの見方、参加型双方向授業 当たり前の「生活」を疑う、「生活」「福祉」「文化」の結合 第2回：耳の聞こえない人と音楽、その生活上の工夫 第3回：目の見えない人と音楽、その生活上の工夫 第4回：耳の聞こえない人と目の見えない人の音楽、その工夫 第5回：障害者のボンでの音楽会、利用者からみる工夫</p> <p>2. 生活福祉文化の実践例——福祉・リハ・看護場面で 第6回：日常生活と生活福祉文化（衣食住、美容、交通、ユニバーサルデザイン等） 第7回：芸術活動と生活福祉文化（音楽・絵画・書道、陶芸等）ゲストスピーカー</p> <p>第8回：遊びと生活福祉文化（余暇、レクリエーション、趣味、旅行、生涯教育等） 第9回：健康・スポーツと生活福祉文化 第10回：自然・動物と生活福祉文化（ペット、動物、園芸等）</p> <p>3. 生活福祉文化としての展開——地域で築く生活福祉文化 第11回：子どもと生活福祉文化 第12回：LGBTQ+などの人々と生活福祉文化 第13回：高齢者と生活福祉文化 第14回：認知症の高齢者と生活福祉文化 第15回：SDGs と生活福祉文化</p>
アクティブラーニング	課題解決型学習を展開。授業のなかで教員と双方向のコミュニケーションを行い、主体的に考え、学ぶ態度を涵養する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度 20%、毎回授業終了後 WebClass に入力 20%、定期試験レポート Webclass に提出 60%（評価基準はルーブリックで示す）
課題に対するフィードバック	授業のなかで取り上げる
指定図書	特になし

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	授業中に紹介します				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>1, 事前学習としてWebClass や配布されたプリントに掲載された資料等を熟読し、授業内容を理解する (15分)</p> <p>2, 授業によって得た知識を、配布されたプリント資料によって深掘し、リアクションペーパーにて整理する (15分)</p> <p>3, レポートの準備として生活の中での実体験や社会問題との関連性について考察を深める (90分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付ける。				
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	特になし				

科目名	レクリエーション概論
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	レクリエーションは、医療・福祉・教育の様々な場面で活用されている。レクリエーションの概念と意義を理解したうえで、レクリエーション支援、レクリエーション計画の考え方を学び、保健・医療・福祉・教育の現場における支援に生かすことができるようになる。
到達目標	1. レクリエーションとは何か、現代社会においてレクリエーションがいかに大切であるかを理解する。 2. レクリエーション支援、レクリエーション計画の考え方を理解し、保健・医療・福祉・教育の現場における支援に生かすことができるようになる。 3. 自分自身のレジャー、レクリエーションの必要性を知り、より心豊かな生活を指向できるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：レクリエーションとは何か 学びへの導入 レクリエーションとは〇〇〇である 〇〇は一つではない</p> <p>第2回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (1) パラスポーツ 現場見学の説明</p> <p>第3回：日本におけるレクリエーションの歴史 日本におけるレクリエーションは〇〇〇により普及した</p> <p>第4回：人間の権利としてのレクリエーション 障害者にとって〇〇〇〇も喜びなのだ</p> <p>第5回：レクリエーションの本質 レクリエーションとは〇〇的なものであるがゆえに〇〇である</p> <p>第6回：レジャーを考えるー余暇生活設計ー 日本人は〇〇時間の約3倍の〇〇時間をもっている 日本人が最も多く自由時間を費やしているのは〇〇である</p> <p>第7回：レジャーへの理解を深める 〇つの楽しい、自由時間の〇つの過ごし方</p> <p>第8回：レジャー・レクリエーションの視点から、子どもたちの問題を考える 遊び成立の条件〇つの間 〇〇〇〇に子守りをさせないで!</p> <p>第9回：レクリエーション援助とは 個人へのレクリエーション援助 入院している高齢者の願いは何か?</p> <p>第10回：集団を介した援助 レクリエーション環境の整備 行事の意味 すぐきな保育園の環境づくり</p> <p>第11回：レクリエーション計画 企画の基本要件〇WOH アセスメント入門</p> <p>第12回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (2) 回想法、遊びリテーション</p> <p>第13回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (3) パラスポーツ、生きがい療法</p> <p>第14-15回：地域におけるレクリエーションの実際(現場見学) 静岡バリアーズ(車椅子バスケット)、浜松視覚特別支援学校 (グラウンドソフト) パラだに (シッティングバレーボール)、浜松ボッチャ倶楽部 COOL 等</p> <p><受講者へのメッセージ>履修希望の学生は、第1回目から出席してください。履修希望者が履修可能人数より多い場合、第1回目の出席者を優先します。</p>
アクティブラ	○ディスカッション、○現場見学

ーニング	ピアタイム (ペアで意見交換)、アニマルタイム (マイクで発表)、WebClass への学びの記録				
授業内の ICT 活用	WebClass にて学びの確認をします。				
評価方法	レポート 60%、授業への取組 (関心・意欲・態度、WebClass への学びの記録) 40% ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。				
課題に対するフィードバック	WebClass のタイムラインやメールを活用し、フィードバックする。				
指定図書	なし (資料配布及び WebClass に掲載)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	下記参照 土門拳『腕白小僧がいた』小学館 河合雅男『子どもと自然』岩波書店 ノーマン・カズンズ『笑いとは癒し』岩波書店 他 授業時に紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
生きがいについて	神谷美恵子 / 著	みすず書房	1600	9784622081814	
LIFE SHIFT [1] 100年時代の人生戦略	リンダ・グラットン	東洋経済新報社	1800	9.7844925339e+12	
事前・事後学修	授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。 毎回、授業後に WebClass に学びを記録し、各回の事後学修課題に取り組む。 授業での学びを日常生活、実習等に活用する。目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	事後学修、自主学修として、以下の URL の受講を勧めます。 日本パラスポーツ協会 障がい者スポーツ映像配信 https://www.jsad.or.jp/movie/index.html				
オフィスアワー	和久田佳代 国際教育学部 2709 時間については初回授業時に提示				
実務経験に関する記述	本科目は「福祉レクリエーション・ワーカー」「公認中級パラスポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について					

科目名	音楽
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	この授業は一般教養として広く音楽に触れ、知識や技術を磨き、感性を高め教養を身に付けるための科目です。日本や世界の音楽を鑑賞し、歌唱等の音楽表現を通して広義に音楽について触れ学修します。
到達目標	1. 音楽理論を学び音楽の構造を捉えることができる。 2. 音楽の鑑賞を通して曲の構成や曲想について感受することができる。 3. 歌唱の活動を通してハーモニーの美しさを感じ声で表現することができる。 4. 世界の様々な音楽のジャンルに触れ比較することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： オリエンテーション</p> <p>第 2 回： 音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 日本 ドイツ</p> <p>第 3 回： 音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 アメリカ フランス</p> <p>第 4 回： 音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 楽器の種類と音色</p> <p>第 5 回： 音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 ゴージャズ</p> <p>第 6 回： 音楽の基礎と鑑賞 オーケストラの世界</p> <p>第 7 回： 音楽の基礎と鑑賞 世界の民族音楽の世界 東南アジア ヨーロッパ</p> <p>第 8 回： 音楽の基礎と鑑賞 世界の民族音楽の世界 アフリカ 南アメリカ 日本</p> <p>第 9 回： 音楽の基礎と鑑賞 J ポップスの世界 ジャズの世界</p> <p>第 10 回： 音楽の基礎と鑑賞 オペラの世界</p> <p>第 11 回： 美しいハーモニーで歌おう 心と体の開放 二声体の合唱曲の練習と仕上げ</p> <p>第 12 回： 美しいハーモニーで歌おう 心と体の開放 二声体の合唱曲の練習と仕上げ</p> <p>第 13 回： 子どもの発達と音楽の世界</p> <p>第 14 回： 映画音楽の世界</p> <p>第 15 回： 世界の音楽</p>
アクティブラーニング	音楽を視聴し言葉で批評し合唱曲を歌う等の活動を通して体験的に学びを深化させていきます。
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。
評価方法	授業態度 20%、個別課題 40%、定期試験 40% (レポート) ※個別課題では、各自のお気に入りの曲を紹介してもらいます。
課題に対する	実技の場面ではグループ及び個人に対してアドバイスを致します。

フィードバック					
指定図書	指定図書・資料については講義内で適宜配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	講義内で適宜配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各自講義の中で扱った曲について練習しておいてください。楽譜を手掛かりに事前・事後学修として音をとったり、リズムを確認したり、音楽を視聴するなどしましょう。目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	ピアニストの演奏会に参加し生演奏を聴くことで感受性を養う。※学内で開催されるジョン・カミツカ氏ピアノ演奏会に参加する可能性があります。状況によりますので詳細が決定した場合は授業内でお知らせいたします。				
オフィスアワー	初回時にお伝えします。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	音楽
科目責任者	金山 智彦
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	音楽に、苦手意識を持つ人でも、音楽が好きになることを目指して、音楽を実践する科目。「キリスト教と音楽の関わり」など、様々な観点から音楽について考察し、体感することを通し、音楽についての理解を深め、音楽に対する感性を磨く。さらにこの体験を、仕事や日常生活に活かし、生涯にわたり、音楽文化に親しみ、豊かな人生を歩むことを目的とする。
到達目標	1. 音楽一般について、知識を身につけ、理解を深める。(音楽理論、歴史、様式など) 2. 楽器演奏、歌唱(合唱)、鑑賞などを通して、音楽の素晴らしさを体感する。 3. 音楽と生活の関りを意識し、自他の人生(社会)をより豊かにするために、音楽を活用することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回: What's Music? (あなたにとって音楽とは? 音楽は〇〇〇の叫び?)</p> <p>第2回: What a wonderful 日本の音楽教科書! Part1 (あの素晴らしい小学校の音楽をもう一度!)</p> <p>第3回: What a wonderful 日本の音楽教科書! Part2 (楽譜なんかこわくない。楽譜を読もう!)</p> <p>第4回: What a wonderful 日本の音楽教科書! Part3 (もっと もっと音楽を楽しもう!)</p> <p>第5回: 西洋音楽と楽譜の歴史 Part1 (どう記録する? あなたの歌をあなたなら)</p> <p>第6回: 西洋音楽と楽譜の歴史 Part2 (ド・レ・ミ)はどこから? ドは ドーナツのド?)</p> <p>第7回: 西洋音楽と楽譜の歴史 Part3 (調の確立と崩壊と! Challenge the 現代音楽!)</p> <p>第8回: 「ドレミの歌」に見る 作・編曲の極意! (誰でも曲が作れChau!)</p> <p>第9回: キリスト教と音楽いろいろ! Part1 (賛美歌とは? グレゴリオ聖歌 から C.C.M まで)</p> <p>第10回: キリスト教と音楽いろいろ! Part2 (ゴスペル Gospel songs を歌おう!)</p> <p>第11回: キリスト教と音楽いろいろ! Part3 (ア・カペラに挑戦! 『Kum Ba Yah』って何語?)</p> <p>第12回: キリスト教と音楽いろいろ! Part4 (季節外れの Christmas Songs)</p> <p>第13回: Piano っておもしろい!? (グラヴィチェンバロ コル ピアノ エ フォルテとは?)</p> <p>第14回: 声楽と器楽(編成と形式と)あれこれ! (交響曲とは? 協奏曲とは? 指揮者とは?)</p>

	第15回：音楽とイメージ（生活の中の音楽いろいろ）『Let's Sing The Final!』					
アクティブラーニング	本授業は、PBL、グループワークを取り入れ、テーマに関連する実技・実習を随時行います。（合唱、合奏、鑑賞、創作などを含む）					
授業内のICT活用	インターネット上に公開されている資料などをプロジェクターを用い、授業内で共有します。（音楽音源、映像資料など）					
評価方法	授業への取り組み状況、課題提出物（リアクションペーパーなど）：30% レポート（定期試験）：70%					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、レポートにコメントなどを記入し、返却します。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	授業中に随時連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	授業のテーマに関連する音楽に触れる機会を持ってください。 （歌唱、楽器演奏、音楽鑑賞などを含む。原則1回40分で4回以上） ※読譜能力、歌唱力、楽器演奏能力のレベルは特に問いません。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「元ヤマハ音楽教育システム指導スタッフ、元浜松市立中学校音楽講師、音楽教室主宰、幼稚園・キリスト教会などでのコンサート活動」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	音楽
科目責任者	本多 厚美
単位数他	1単位 (30時間) 選択 秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	生まれ持った個々の楽器(声帯)の特徴を知り、個々の感性、運動能力を引き出しながら、演奏する豊かな表現力を養い、広く世界の音楽を学び、教養を付けともに歌い演奏する。最初に言葉ありきの音楽は、教会音楽：(ラテン語)から始まり、クラシック、オペラ、ミュージカル、ジャズ、シャンソン、J&kpop までの音楽にクロスオーバーに、英語をはじめ世界の言語を唱える。楽曲からくる様々な国の言語の違い、世界の文化、歴史を見つめ学びながらグローバルに世界を巡る。講師が広く世界で実際に学んできた日本人が世界に通用するための最先端の
到達目標	1. 国際音声法にて英語などの言語を使って、欧米で使われている英語などの真の世界に通用するための正しい発音法発声法(真の滑舌法)を学び歌って実践する。 2. 個々の声帯と身体の特徴を知り、正しい呼吸法と運動能力を身に付け、健康な心と体のバランスを保ち、音楽を通じて日常などの会話など声のコミュニケーション能力を養う。 3. 日本の歌、世界の歌の音楽を通じて、グローバルな英語などの発音法、表現の仕方を身に付ける。歌唱、アンサンブル、器楽演奏などを鑑賞し、世界の音楽、文化を愛好する能力を養い高める。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 歌って世界を巡ろう 「世界の発声法を身に付け、世界の劇場や音楽文化、日本の音楽文化の歴史を知ろう」</p> <p>第2回：音楽は世界を巡るⅠリラクゼーションと健康と発声法 「身体の仕組みを知ろう」 「世界に通用する発声練習・コミュニケーション力を養う発声法 実践」</p> <p>第3回：音楽は世界を巡るⅡ ウォーミングアップ&世界の歌を知ろう 「個々の声帯の特徴を知り、個々の発声法、運動能力、呼吸法を身に着けよう」</p> <p>第4回：音楽は世界を巡るⅢ 世界の歌を原語で歌ってみよう：ボイストレーニングの仕方 「世界に通用する滑舌法」「グローバルな歌手の発声法」「プレジデントなどの話すための発声法」を学ぼう</p> <p>第5回：世界の音楽の歴史Ⅰ 音楽の歴史を紐解こう 教会音楽から近代現代まで 音楽は教会音楽から始まる！世界のAve Mariaをまずラテン語で歌ってみよう</p> <p>第6回：世界の音楽の歴史Ⅱ 総合芸術のオペラとミュージカル 演劇の練習をしてみよう モーツァルトからビゼーカルメンまでのオペラの歴史を知ろう。 ディズニーから現代のミュージカル、映画音楽、アニメソング、ポップスまでの歴史 を知り、原語の歌うときの言葉のつけ方を学んで歌ってみよう 英語、ドイツ、イタリア、フランス語</p> <p>第7回：世界の音楽の歴史Ⅲ 美しい日本の言葉、音楽を知ろう 明治から大正昭和の音楽の歴史 童謡、唱歌、日本歌曲まで 日本語の歌詞のつけ方</p> <p>第8回：人間の声とオーケストラの楽器Ⅰ 人間の声&ピアノ&オーケストラの楽器について ピアノに触れてみよう。指を動かし簡単なジャズコードを覚えよう</p> <p>第9回：人間の声とオーケストラの楽器Ⅱ オーケストラの楽器は人間の声から生まれている。楽曲、楽器の特徴と種類。 ベートーヴェン第9合唱付みんなで歌ってみよう ドイツ語</p> <p>第10回：世界の音楽の歴史Ⅳ ミュージカルを演技を付けてみんなで歌ってみましょう。 オペレッタからブロードウェイミュージカルまでの歴史。鑑賞及び実践 英語</p> <p>第11回：世界の音楽の歴史Ⅴ 世界を巡り、ジャンルを超えてクロスオーバーに歌おう</p>

	<p>クラシックからジャズ、ポップスまで、ジャンルを超え英語などの様々な国の原語で</p> <p>歌ってみよう！！ 英語、ドイツ、イタリア、フランス語 etc</p> <p>第12回：世界に羽ばたくために児童生徒音楽教育Ⅰ みんなで楽しくアンサンブル&合唱練習 個々の声帯の特徴をを生かし、英語力を磨き正しい発音、発声法を身に付け己に合った曲を歌ってみよう！実践してみよう！</p> <p>第13回：世界に羽ばたくために児童生徒音楽教育Ⅱ みんなで楽しくアンサンブル&合唱練習 世界の音楽からのリズム感を鍛えそれぞれの感性、表現力、コミュニケーション能力を磨き演奏で表現しよう！</p> <p>第14回：音楽福祉 歌うことと健康Ⅰ 子供から大人までの世代別人気曲を知ろう 心豊かに和むように、年代に合った選曲し、楽しくうたってみよう。 個々の身体の特徴や年齢に合ったボーカルエクササイズを学ぼう。 個々の体に合ったウォーミングアップ。</p> <p>第15回：総まとめ 最後にみんなで「みんなの演奏会」をプログラミングしてみよう。 プログラムを企画し、実践してみよう！ 個々にあった選曲をしながら、みんなでのアンサンブルハーモニーを楽しみ、世界を巡り演奏する楽しみを味わってみよう</p>					
アクティブラーニング	<p>授業内容の中で、実技演奏の訓練行う。</p> <p>講師が実際に世界で学んできた日本人が最先端に世界に羽ばたくための正しい呼吸法、発声法を使い音楽で、実践の演奏及びコミュニケーション能力を音楽で身につける。</p> <p>音楽から正しい英語などの原語の発音法を身に付ける。</p> <p>音楽に合わせて個々にあったリズム体力づくり、演奏する健康な体を身に付ける。</p>					
授業内の ICT 活用	<p>インターネットの資料などプロジェクターを使いパワーポイントなので説明をする。</p> <p>また CD 及び DVD の音源と映像を使い、わかりやすく提供します</p>					
評価方法	<p>レポート(定期試験)課題による提出物 50%</p> <p>授業の状況 50%</p>					
課題に対するフィードバック	<p>レポートに感想などを記入し、毎回提出。</p>					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	随時ご連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<p>講義の中で歌い練習して「まとめ」にてみんなとともに歌います。授業の前、身体の運動と声のウォーミングアップを10分前後心がけていただけるようお願いいたします。世界の奏法を知り、一人一人の積み重ねにより全体の音楽の創作能力が高まり素晴らしい音楽が出来上がります。</p> <p>また講義の中で使った楽曲については、インターネット等で聴いているようなアーティストの工夫を聴いてください。</p>					
オープンエデュケーションの活用	<p>響くホールでの声の実践練習、ピアノと歌のコラボレーション</p>					

オフィスアワー	教務事務センターを介して受け付けます。または、授業の最後に受け付けます。
実務経験に関する記述	この科目は、世界の第一線での活躍の師のもと長く欧米での研さんを重ね、サントリーホールなど内外にて、巨匠ピアニストと10か国以上の愛の歌の言語を使い、内外で30回以上連続リサイタル活動を開催し、演奏し続け国際歌手として認められている経験豊富な歌手の講師による講義です。講師は日本国内を広範囲にて、公立大学特別講師などはじめ、アマチュアからプロまでに至るまで多くの日本人を教鞭した結果得た、日本人が世界に羽ばたくための発声法アツミメソッド(特許庁取得)を使用します。これは日本人の長所短所を捉えながら外国のアーティ
メディア授業の実施について	対面授業中心ですが状況において対処いたします。

科目名	健康スポーツ論					
科目責任者	安田 智洋					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 春・秋					
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎					
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。					
科目概要	健康な人生を過ごすための生活処方を身体活動(運動・スポーツ)、栄養(食事)、休養を総合的に学習し、特に身体活動による健康づくりを中心に健康寿命の延伸を考える。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門基礎科目の学修を通して、健康・スポーツの基礎となる知識を修得できる。 2. 運動・栄養・休養を学習し、自分自身と周りの人の健康に関心をもつ。 3. 学習した科学知見を単なる知識として留めるのではなく、日常生活での実践につなげる。 					
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：健康と健康増進の概念（国民健康づくり施策、健康日本 21）</p> <p>第 2 回：栄養摂取と運動（健康と栄養、運動時のエネルギー源）</p> <p>第 3 回：肥満と痩せ（体脂肪の役割、肥満と痩せの判断基準、リバウンド現象）</p> <p>第 4 回：安静時代謝・メッツ（安静時代謝や運動の消費カロリー）</p> <p>第 5 回：メタボリックシンドローム・サルコペニア・フレイル（加齢に伴う身体変化）</p> <p>第 6 回：骨強度と生活習慣（骨粗鬆症の危険因子や予防対策）</p> <p>第 7 回：筋力トレーニング（適切な筋力トレーニングの条件や筋肥大のメカニズム）</p> <p>第 8 回：有酸素トレーニング（有酸素能力と生活習慣病、有酸素トレーニングの条件）</p> <p>・必要な専門知識を幅広く身につけることが目的であるが、覚えるだけでなく、日々の健康増進で活かすように心がける。</p> <p>・履修者は 50 名を上限とする。</p> <p>・小テストの実施・リアクションコメントの入力で活用するため、授業には毎回筆記用具とパソコン（またはスマートフォン）を準備すること。</p> <p>・授業中、態度不良（私語、不必要時のスマートフォンの使用など）の学生には退室を促すことがある。</p>					
アクティブラーニング	PBL、WebClass の活用					
授業内の ICT 活用	WebClass の活用（小テスト、リアクションコメントの入力など）					
評価方法	定期試験 50%、授業内小テスト 30%、授業態度 20%（計 100%）					
課題に対するフィードバック	小テストの解説、課題への回答・リアクションコメントをフィードバックします。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業中に随時連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前には、各テーマの内容を予習する（約 40 分）。 ・授業に関連する資料は、WebClass にファイルで示す（適宜）。 ・事後学修では、前回の授業内容に対する復習を行い、小テストに備える（約 40 分）。 					

オープンエデュケーションの活用	第1回： https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kenkozoshin/health/health_21/index.html 第2回： https://www.maff.go.jp/j/balance_guide/ 第3回： https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/food/e-02-001.html 第4回： https://www.tyoju.or.jp/net/kenkou-tyoju
オフィスアワー	1号館、1206研究室、火曜・金曜 12:30～17:00
実務経験に関する記述	本科目は「博士（理学）、中学校教諭一種免許（理科、保健体育）、高等学校教諭一種免許（理科、保健体育）、NSCA 認定 CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員」の資格を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	健康スポーツ実践
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	身体運動(運動・スポーツ)の実践と併せ、様々な生理学的指標を計測しながら科学的に学習し、健康づくりのための身体活動の必要性とその効果を考える。また、自分の生活習慣や体力レベルから日本の健康づくり施策(健康日本21)を理解・学習する。
到達目標	1. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確立できる。 2. 個人の体力の違いを学習し、それらに応じた運動、身体活動の実践方法を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス(初回のみ着替え不要*欠席した場合、教員へ個別連絡が必要)</p> <p>第2回：Pre 体力測定1 (質問紙法、体組成、血圧、敏捷性)</p> <p>第3回：Pre 体力測定2 (筋力・筋パワー、バランス能力、有酸素能力)</p> <p>第4回：つもりと実際 (筋力・瞬発力の推定値と実測値の比較)</p> <p>第5回：フレイル・ロコモ・サルコペニア (簡易評価法など)</p> <p>第6回：有酸素運動 (推定心拍数から運動強度を算出)</p> <p>第7回：硬式テニス (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第8回：バスケットボール (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第9回：卓球 (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第10回：インディアカ (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第11回：バレーボール (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第12回：バドミントン (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第13回：レクリエーションスポーツ (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第14回：Post 体力測定1 (Pre の測定値と比較)</p> <p>第15回：Post 体力測定2 (Pre の測定値と比較)・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴(これまで有したことのある病気や障害・傷害など)がある場合も同様。 ・第1回に健康確認や授業の重要事項を説明(欠席者は第2回までに教員への個別連絡が必要) ・履修者は32名までとする(履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある)。 ・硬式テニスでは屋外シューズ、それ以外では室内シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止する。 ・受講者全員が楽しく授業が行えるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。
アクティブラーニング	グループワーク、PBL、学修ポートフォリオ
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClass の活用(小テスト、レポート提出、リアクションコメントなど) ・自宅トレーニングとレクリエーションスポーツでは、動画とプロジェクターを利用します。
評価方法	基本技術の習得状況・達成度10%、レポート課題50%、授業態度20%、機器・用具の取り扱いと準備・片付け10%、服装10%(計100%) レポートの提出期限は厳守。
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションコメントをフィードバックします。
指定図書	なし

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	授業中に随時連絡				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	毎回の授業前には関連事項を予習する。授業後は授業で得られたデータをまとめ、レポートを作成しながら復習する（約40分）。				
オープンエデュケーションの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後学修として以下のURLの学修を指定します。 体力測定 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/stamina/03040901.htm フレイル https://www.tyojyu.or.jp/net/byouki/frailty/about.html ロコモ https://www.tyojyu.or.jp/net/byouki/locomotive-syndrome/index.html サルコペニア https://www.tyo 				
オフィスアワー	1号館、1206研究室、火曜・金曜 12:30～17:00				
実務経験に関する記述	本科目は「博士（理学）、中学校教諭一種免許（理科、保健体育）、高等学校教諭一種免許（理科、保健体育）、NSCA 認定 CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員」の資格を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	スポーツ I
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	学生の体力レベルと技術レベルを考慮し、さまざまなスポーツを利用して段階的に運動の基礎を充実するための授業を展開する。 複数のスポーツを行い、楽しみながら自己の体力と運動技術に対する理解を深める。
到達目標	1. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確立できる。 2. 複数のスポーツを実施し、楽しみながら健康管理能力を養うことで、生涯スポーツの重要性を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス（初回のみ着替え不要*欠席した場合、教員へ個別連絡が必要） 第 2 回：硬式テニス① テニス導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習など 第 3 回：硬式テニス② ラケットティング、打法の練習、 第 4 回：硬式テニス③ サーブの練習、レベル別のミニゲーム 第 5 回：硬式テニス④ テニスの実技テスト、レポート課題 第 6 回：バスケットボール① バスケットボール導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、簡易ゲーム 第 7 回：バスケットボール② 基礎練習、ゲーム 第 8 回：バスケットボール③ 基礎練習、ゲーム、レポート課題 第 9 回：ラージボール卓球① ラージボール導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、シングルスゲーム 第 10 回：ラージボール卓球② 基礎練習、ダブルスゲーム、レポート課題 第 11 回：インディアカ① インディアカ導入の小テスト（ルール等）、基礎練習、ゲーム 第 12 回：インディアカ② 基礎練習、ゲーム、レポート課題 第 13 回：ボッチャ ルール確認、ゲーム 第 14 回：ドッジボール ルール確認、ゲーム 第 15 回：総括 授業の振り返りなど</p> <p>・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴（これまで有したことのある病気や障害・傷害など）がある場合も同様。 ・第 1 回に健康確認や授業の重要事項を説明（欠席者は第 2 回までに教員への個別連絡が必要） ・履修者は 40 名までとする（履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある）。 ・硬式テニスでは屋外シューズ、それ以外の実技種目では体育館シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止。 ・受講者全員が楽しく効果が上がるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。</p>
アクティブラーニング	グループワーク、PBL、学修ポートフォリオ
授業内の ICT 活用	WebClass の活用（小テスト、レポート提出、リアクションコメントなど）
評価方法	基本技術の習得状況・達成度（小テスト・実技テスト）30%、レポート課題 30%、授業態度 20%、用具の取り扱いと準備・片付け 10%、服装 10%（計 100%） 小テストなどの再試験は実施しない。レポートの提出期限は厳守。
課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポート・リアクションコメントをフィードバックします。

ク						
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	授業中に随時連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・履修前に各種目のルール・マナーを学修し、必要となる技術や自分にとって理想的な戦術を考える(約40分)。授業後は問題点を確認し、次回または次の種目のレベル向上につなげる(約40分)。 ・2, 6, 9, 11回目の授業開始直後に小テストを実施(計120分=4回分を要する)。 ・授業後に振り返り課題を実施。 ・5, 8, 15回目の授業後にレポート課題を実施する(計120分=3回分を要する)。 					
オープンエデュケーションの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後学修として以下のURLの学修を指定します。 テニス https://www.jta-tennis.or.jp https://www3.nhk.or.jp/sports/tennis/ バスケットボール http://www.japanbasketball.jp/referee/rule2022 ラージボール卓球 https://jtta.or.jp https://www3.nhk.or.jp/sports/table-tennis/ https 					
オフィスアワー	1号館、1206研究室、火曜12:30~17:00					
実務経験に関する記述	本科目は「博士(理学)、中学校教諭一種免許(保健体育)、高等学校教諭一種免許(保健体育)、NSCA認定CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員」の資格を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	スポーツⅡ				
科目責任者	和所 泰史				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋				
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	人間が、より健康で、活力に富んだ生活を営むためには、その基礎となる体力が備わっていないとできない。体力を高めることで、病気や怪我を予防出来たり、各種のスポーツを楽しんだりすることが出来る。その体力を高めるように運動することが、体力トレーニングである。この科目では、様々なトレーニングを実践し、学び、身体活動・スポーツに内在する楽しさも体験する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を理解し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを行う資質を身につける。 ・自身の体力や技能を向上させ、他者との違いを学び、共感・配慮・いたわりを理解できる集団の中での協調性を学ぶ。 				
授業計画	<p>第1回： ガイダンスとアイスブレイキング</p> <p>第2回： 【競技】 バレーボール ① (協調性を高める)</p> <p>第3回： 【競技】 バレーボール ② (協調性を高める)</p> <p>第4回： 【競技】 バレーボール ③ (協調性を高める)</p> <p>第5回： 【競技】 バレーボール ④ (協調性を高める)</p> <p>第6回： ドッチビー (生涯スポーツの理解①)</p> <p>第7回： 【競技】 卓球 ① (個人技能を高める)</p> <p>第8回： 【競技】 卓球 ② (個人技能を高める)</p> <p>第9回： 【競技】 卓球 ③ (個人技能と協調性を高める)</p> <p>第10回： 【競技】 卓球 ④ (個人技能と協調性を高める)</p> <p>第11回： スポーツレクリエーション (生涯スポーツの理解②)</p> <p>第12回： 【競技】 バドミントン ① (個人技能を高める)</p> <p>第13回： 【競技】 バドミントン ② (個人技能を高める)</p> <p>第14回： 【競技】 バドミントン ③ (個人技能と協調性を高める)</p> <p>第15回： 【競技】 バドミントン ④ (個人技能と協調性を高める)</p> <p>・第1回授業に授業の重要事項を説明し、既往歴等を尋ねるため、必ず出席すること。</p> <p>・トレーニングウェア、室内シューズを必ず用意すること。また、アクセサリや時計の着用を禁止する。運動に適していない服装の場合は、授業参加を認めない。</p> <p>・集団・社会の一員として自覚を持った行動をとること。</p>				
アクティブラーニング	能動的に学ぶ実技科目です。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	<p>授業の履修状況 (意欲・態度・積極性など) 40%</p> <p>授業時の課題への取り組み 30%</p> <p>授業時の協調性・協力的行動 (準備・かたづけなど) 30%</p>				
課題に対するフィードバック	授業中の態度や真摯な取り組みなどを評価し、課題の把握やモチベーションのアップに繋げる。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし ルールなどの資料配布				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	授業前に、各スポーツのルールや技能の高め方などを動画や本などで学修しておく。(約60分) 授業後は、ルールや問題点などを確認し、継続的に生涯的に関わることが出来るように事後学修しておく。(約60分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問などは、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は、保健体育教諭とスポーツ指導員の資格を有する講師が、学校体育と社会体育の実務の観点を踏まえて、教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	法学
科目責任者	伊 夢瑛
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>みなさんは、法というと、何だか堅苦しくて難しい感じがして、何となく関わりたくないと思うかもしれませんが、法の知識は、みなさんが卒業後に仲間入りする「大人の社会」の常識です。</p> <p>この授業では、身近な例をとり上げながら、できるだけやさしくお話しますから、しっかり学んで、リーガル・マインド (Legal Mind) を身につけ、危機管理のできる大人になりましょう。</p> <p>前半の授業では、法とは何か、他の社会規範（つまり、道徳や慣習、宗教等）とはどう異なるのか、裁判の仕組みはどうなっているのか、裁判の基準</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学の基礎知識を習得する。 2. 法的思考に馴染む。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス・法学を学ぶに当って</p> <p>第2回：法の概念</p> <p>第3回：法の目的・機能</p> <p>第4回：法の存在形式</p> <p>第5回：法の分類</p> <p>第6回：法の解釈と適用</p> <p>第7回：裁判と法</p> <p>第8回：犯罪と法</p> <p>第9回：財産と法</p> <p>第10回：家族と法</p> <p>第11回：社会福祉と法</p> <p>第12回：相談援助活動と法</p> <p>第13回：成年後見制度</p> <p>第14回：行政と法</p> <p>第15回：情報と法</p>
アクティブラーニング	講義科目ですから、多くはありませんが、ディスカッションや意見を聞いたときに積極的に発言してください。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 70%、課題レポート 10%、小テスト等 20%で、総合的に評価します。

課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての質問・要望については、毎回リアクション・ペーパーに書いてもらい、次回の授業の冒頭で回答します。 ・毎回の小テストについては、解答例を挙げ、コメントします。 				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
法学<第3版> (Next 教科書シリーズ)	高橋 雅夫 (編)	弘文堂	2200	9.7843350024e+12	
ポケット六法 令和6年版	佐伯 仁志	有斐閣	2200	9.7846410092e+12	
参考図書	授業時に適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・法学の基礎知識の定着を図るために、毎回の授業の始めに、前回の授業で学んだ内容のポイントについての小テストを行う予定ですので、復習に重点を置いて学修するようにしてください。目安時間 40 分。 ・この授業を受講するみなさんは、毎日、新聞に目を通すようにしてください。 <p>受講生のみなさんは、以下の二点を厳守してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には、必ず『六法』をもってくること。 ・授業後、その日のうちに復習すること。 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	日本国憲法				
科目責任者	伊 夢瑛				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春				
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	<p>憲法は、国の基本法であり、国の最高法規だといわれていますが、わたしたちの日常生活にどのような関わりをもち、わたしたちの生活をどのように支えているのかを、受講生のみなさんとともに掘り下げて考え、豊かで健全な人権感覚・人権意識を身につけることを目的とします。</p> <p>この授業では、まず憲法とは何か、日本国憲法で保障されている基本的人権にはどのようなものがあるのか、基本的人権を保障する統治の仕組みはどのようなになっているのか、等々を、身近な事例をとり上げながら、できるだけやさしくお話するつもりです。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的人権にはどのようなものがあり、どのようにして確立されたのかを把握する。 2. 国の統治の仕組みはどのような考えに基づいているのかをしっかりと理解する。 3. 憲法に関する通説と最高裁判所の判例の動きもフォローする。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス・法律とは？</p> <p>第2回：憲法とは何か？</p> <p>第3回：象徴天皇制</p> <p>第4回：平和主義</p> <p>第5回：基本的人権とは何か？ それはどのように保障されているのか？</p> <p>第6回：法の下での平等</p> <p>第7回：精神的自由権</p> <p>第8回：社会権</p> <p>第9回：参政権</p> <p>第10回：権力の分立、立法権と国会</p> <p>第11回：行政権と内閣</p> <p>第12回：司法権と裁判所</p> <p>第13回：地方自治の保障</p> <p>第14回：違憲立法審査権</p> <p>第15回：憲法改正と新しい人権</p>				
アクティブラーニング	講義科目ですから、多くはありませんが、ディスカッションや意見を聞いたときに積極的に発言してください。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 70%、課題レポート 10%、小テスト 20%で、総合的に評価します。				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての質問・要望については、毎回リアクション・ペーパーに書いてもらい、次回の授業の冒頭で回答します。 ・毎回の小テストについては、解答例を上げ、コメントします。 				
指定図書	以下に記載しています。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
日本国憲法	東 裕	弘文堂	2100	9.7843350025e+12	
ポケット六法 令和6年版	佐伯 仁志	有斐閣	2200	9.7846410092e+12	
参考図書	授業時に適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基礎知識の定着を図るために、毎回の授業の始めに前回の授業内容のポイントについての小テストを行いますので、復習に重点をおいて学修するようにしてください。目安時間 40分。 ・この授業を受講するみなさんには、毎日、新聞に目を通すことを要望します。 <p>受講生のみなさんは、以下の二点を厳守してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には、必ず『六法』をもってくること。 ・授業後、その日のうちに復習すること。 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	日本国憲法				
科目責任者	山岸 敬子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋				
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	国の最高法規である日本国憲法は、私たちの人権を保障し、国の仕組みを規定しています。この授業では、日本国憲法の内容・原理をわかりやすく説明していきます。基礎的な判例とともに、時の憲法問題も素材としながらアクチュアルな授業展開を目指します。この授業をとおして、日本国憲法は、実は身近なところにあることを知ってください。				
到達目標	1. 日本国憲法の基礎的な知識を修得すること。 2. 日本国憲法に関する判例をフォローすること。 3. 憲法問題について考える力を育成すること。				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回: シラバスに沿って、イントロダクション 第2回: 憲法って、何だろう? 第3回: 立憲主義—国民主権と権力分立、象徴天皇制 第4回: 日本の立憲主義—明治憲法から日本国憲法へ 第5回: 戦争の放棄—なぜ人権保障の前なのか 第6回: 基本的人権の保障(1)—国家からの自由 第7回: 基本的人権の保障(2)—国家による自由 第8回: 基本的人権の保障(3)—国家への自由、国民の義務、新しい人権 第9回: 基本的人権の保障(4)—違憲審査制度 第10回: 国会 第11回: 内閣 第12回: 司法 第13回: 地方自治 第14回: 最高法規の改正 第15回: 全体のまとめ</p> <p><受講者へのメッセージ></p> <p>授業は、レジュメを使用して進めます。レジュメは、授業時に印刷物を配布しますが、事前学修のために、WebClassに掲載します。</p>				
アクティブラーニング	私が一方的に説示するのではない、双方向型の授業展開をしたいと思います。毎回の授業において、興味深い憲法問題を取り上げます。授業においては、質問・意見等どんなことでも構いません。積極的な発言を歓迎します。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 60%、リアクションペーパー20%、課題レポート 20%、計 100%で総合的に評価します。授業内容の理解を確実にするために、リアクションペーパーを提出してください(2~14回)。				
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについて、次回の授業時に回答します。課題レポートについてコメントします。優秀なレポートを選び、配布することもあります。				
指定図書	以下に記載しています。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
憲法読本	杉原 泰雄	岩波書店	1100	9.7840050077e+12	

参考図書	『ポケット六法 令和6年版』 有斐閣 その他、授業時に適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	復習に重点を置いてください。レジюмеに記載されたテキストの該当頁を読み、復習してください(目安として40分程度)。事前学修のために、WebClassにレジюмеを掲載します。授業では、アクチュアルな憲法問題を取り上げます。新聞等のニュース報道に留意してください。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時・授業後に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	経済学					
科目責任者	白 春騷					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋					
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎					
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。					
科目概要	<p>家庭の生活や企業の生産活動は、どのような考えに基づいて、どのような制度の下で行われているのでしょうか。また、政府が実施する政策は、本当に望ましいものなのでしょうか。</p> <p>この講義では、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、日々目にする経済活動や政策に対して自分なりの理解と判断ができるようになることを目指します。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と基本的な考え方を理解する。 2. 経済学の多様性を理解するとともに、経済学の限界も理解する。 3. 身の回りの事象を経済学の観点から考察できるようになる。 					
授業計画	<p>〈授業内容・テーマ等〉</p> <p>第1回 ガイダンス：経済学の基本的な仕組みについて</p> <p>第2回 経済活動とは何か</p> <p>第3回 消費と生産</p> <p>第4回 資本と貨幣の役割</p> <p>第5回 所得と所得の種類</p> <p>第6回 消費行動の原理と生産者の行動原理</p> <p>第7回 価格決定メカニズム</p> <p>第8回 外部経済と外部不経済</p> <p>第9回 公共財・フリーライダー</p> <p>第10回 独占の種類と特徴</p> <p>第11回 GDP と景気</p> <p>第12回 物価と三面等価</p> <p>第13回 国際貿易と為替レート</p> <p>第14回 財政政策と社会保障政策</p> <p>第15回 中央銀の役割と金融政策</p>					
アクティブラーニング	毎回の講義で、ワークショップを行い、講義内容への理解を深めます。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	定期試験（筆記試験）80%、講義中の取り組み（受講姿勢及びリアクションペーパー等）20%、で評価します。					
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーへのコメントを行います。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	講義中に随時連絡します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

事前・事後学修	講義前に講義のキーワードに基づき 40 分程度予習すること。 講義後に講義内容を踏まえて社会や身近の事例を見つけ 40 分程度復習すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	ご質問等がある場合、授業時に直接、もしくは bai@hm.tokoha-u.ac.jp までお問い合わせください。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし(現時点)

科目名	教育学				
科目責任者	太田 知実				
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋				
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	本講義では、「教育＝発達への助成的介入」と捉え、子どもの発達とそれへの支援・介入をめぐる重要概念・論点について考察を深める。その際、学校における教師—子どもによる教育活動のみならず、それが社会・世間からどのような作用を受けているのかにも焦点を当てる。それらを通じて、自身の受けてきた教育を振り返り、捉え直すとともに、これから市民（大人）として、どのように教育に向き合いたいのか／向き合うべきかについて、考えを深める。				
到達目標	1. 教育とはどういう営みかについて理解する。 2. 自分の成長過程を振り返りつつ、子どもの発達とそれへの助成的介入（教育）について、理解し、説明できるようになる。 3. 現代の学校教育の意義と課題を理解し、自分なりの考えを述べることができる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 イン트로ダクション 第2回 教育学の基礎① 教育学の基礎概念 第3回 教育学の基礎② 子どもたちの育ちの現状 第4回 発達と教育① 発達への介入の条件 第5回 発達と教育② 発達理解と教育 第6回 発達と教育③ 現代的な発達課題 第7回 「自分くずし・自分づくり」① 前思春期における家庭と発達・教育 第8回 「自分くずし・自分づくり」② 思春期における友人関係と発達・教育 第9回 「自分くずし・自分づくり」③ 思春期における人格再統合 第10回 現代社会と教育① 現代社会の変容と教育 第11回 現代社会と教育② 格差社会と教育 第12回 現代社会と教育③ 大人のための教育学へ 第13回 まとめと展望① 教え・育てることの復権 第14回 まとめと展望② 子ども・社会・自分を見る 第15回 まとめと展望③ 講義のまとめ・確認				
アクティブラーニング	グループワーク、グループ・ディスカッション				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%				
課題に対するフィードバック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	事後学修：授業で扱った内容について、新聞や読書を通じて理解を深める（2～15回） （事後学修の目安 1回につき80分）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	太田知実（看護学部所属）1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は初回授業の際に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	社会学
科目責任者	馬場 孝
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	人間の社会の慣習、規則、制度は、人間の社会的行動の結果として形作られたものでありながら、人間の行動を制約し、行動に際しての大きな拘束力を持つ。「当たり前」として自明視される「常識」もそのひとつである。社会学とは、人間の行為、相互作用、社会構造の本質について体系的に探求する学問である。本講では、前半で、社会学の理論と概念の基礎を学び、後半で、前半の知識を活用し、研究事例を通じて、具体的な社会的諸問題についての考察を深める。なお、各論の一部は資料の精読とドリル形式で理解と知識の定着を図る。
到達目標	1. 社会学の学説のあらましと基礎的な概念を理解する 2. 社会学の基礎的諸概念を用いて諸現象を分析できる 3. 私たちが直面する社会的な諸問題と現代社会の構造との不可分の関係を理解する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p><概論：社会学の考え方や概念・理論の基礎を学ぶ></p> <p>第1回：社会学とは何か(1)：社会学の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学とはどのような学であるか、学問の誕生の歴史とともに学ぶ <p>第2回：社会学とは何か(2)：社会学の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> コントに続き、デュルケーム、ジンメル、ウェーバーによる学問の確立を概観する <p>第3回：社会行為論の射程</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学の基本概念である「行為」とその関連概念を学ぶ <p>第4回：人と人の関係：相互行為論 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と人とのつながりを「地位」と「役割」という概念から読み解く <p>第5回：人と社会の関係：相互行為論 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会における人間関係の深層を「演技」や「印象操作」等の概念から読み解く <p>第6回：集団と組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会集団や組織をめぐる諸概念を学び理解する <p>第7回：社会システム論の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 「システム」という概念を社会や組織の分析に導入した理論を学ぶ <p>第8回：機能分析という考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 機能という概念の精緻化と社会分析における適用事例を考察する <p><各論：現代社会の諸相や具体的な社会的問題を考える></p> <p>第9回：社会秩序の形成と変動</p> <ul style="list-style-type: none"> 権力や権威という概念から社会秩序の維持と変動を考える <p>第10回：社会的偏見の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 民族的、社会的偏見の発生と拡散のメカニズムをとらえる <p>第11回：社会病理の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> 「犯罪」をめぐる社会学の研究事例を通じて、逸脱行為と社会病理について考察する <p>第12回：メディアと社会</p> <ul style="list-style-type: none"> メディアによる大衆操作の機序を映像の視聴を通じて考える <p>第13回：地域社会の展開、家族の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市化に伴う地域社会の変容、家族概念の捉え方と現代における変容、実態を理解する <p>第14回：生活の捉え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間にとって生活とは何か。基礎概念を確認し、社会学者の論稿を読みつつ考える <p>第15回：人口と社会</p> <ul style="list-style-type: none"> 「少子化問題」についての社会学の研究事例を通じて人口問題を考える
アクティブラーニング	テーマへの導入は「ディスカッション」を通じて行い、講義につなげる授業方式を採用する

授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 70% 社会学的な考え方や基礎概念の理解を評価する。授業への取り組み 30%。				
課題に対するフィードバック	課題や小テストについてはすべて授業中に解答、解説する				
指定図書	特に指定しない (適宜プリントを配布する)。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	講義中に指示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
事前・事後学修	配布資料の事前、事後の精読を中心に、1回の授業で40分の課題を目安とする				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	現代コミュニティ論
科目責任者	内尾 太一
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	このコースでは、コミュニティの本質的な要素を探究し、現代におけるその展開を理解することに重点を置く。各回の講義では、さまざまな単位や切り口からコミュニティを分析する。具体的には、【Part 1 コミュニティの形成と構造】では家族や食料生産様式、政治組織、社会階層を通じてコミュニティの基礎を学ぶ。【Part 2 コミュニティの動態と相互作用】では、文化、コモンズ、ソーシャルキャピタル、社会的包摂と排除、持続可能性といったコミュニティと関連の深い概念を学ぶ。【Part 3 現代のコミュニティ】では
到達目標	1. コミュニティの基本構造と成り立ちを理解できるようになる。 2. コミュニティ内の動態と相互作用に対する分析や考察の目が養われる。 3. 現代のコミュニティの多様性と複雑性を探究する姿勢を獲得する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>【Part 1 コミュニティの形成と構造】</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回としてコースについての説明と、コミュニティに関するワークショップを行う。 <p>第2回：家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの最小単位として家族の形成と拡大について考える。 <p>第3回：サブシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟採集、園芸、牧畜、農耕、資本主義といった食料生産様式の違いからコミュニティを考える。 <p>第4回：政治組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンド、部族、酋長制、近代国家といった政治組織の観点からコミュニティを理解する。 <p>第5回：社会階層</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧富の格差や都市と農村といった区分とコミュニティの形成を学ぶ。 <p>【Part 2 コミュニティの動態と相互作用】</p> <p>第6回：文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティにおけるライフスタイルや価値観、儀礼、アイデンティティといった諸要素を捉える視点を獲得する。 <p>第7回：コモンズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティで共有する様々な財の活用のあり方について考察する。 <p>第8回：ソーシャルキャピタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の社会関係を資本と捉える視点からコミュニティの日常実践を振り返る。 <p>第9回：社会的包摂と社会的排除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開放的なコミュニティと閉鎖的なコミュニティを比較し、それぞれの特徴を掴む。 <p>第10回：持続可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口や環境といった観点からコミュニティの存続について考える。 <p>【Part 3 現代のコミュニティ】</p> <p>第11回：ボランティア・NPO</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民による社会貢献活動とそれによって形成されるコミュニティの重要性を学ぶ。 <p>第12回：エスニックマイノリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が幅広く参加する自治会の特性をしり、コミュニティ政策に与える影響を理解する。 <p>第13回：災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に立ち上がるコミュニティや被災地の復興過程における地域コミュニティの重要について理解を深める。 <p>第14回：オンラインコミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでの人々のつながりやコミュニケーションのあり方について理解を深める。

	第15回：コース全体のまとめ ・全体を振り返りと理解度の確認を行う。期末課題レポートにおけるポイントを解説する。				
アクティブラーニング	講義形式で実施するが、講義内容に対してリアルタイムアンケートを実施する。 可能であればグループディスカッション、ワークショップなども随時行う。				
授業内の ICT 活用	Google Forms を用いたインタラクティブな授業展開を目指す。				
評価方法	指定のオンラインフォームによる毎回の講義ノートの提出 (50%) と、期末レポート (50%) で評価をする。				
課題に対するフィードバック	質問などは授業で受け付けると同時にリアクションペーパーに書かれたものに、次回の授業でも応えていく。				
指定図書	特に指定しない (適宜プリントを配布する)。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
事前・事後学修	随時、授業中に指示をする。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	実施しない				

科目名	生物学					
科目責任者	熊澤 武志					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 1セメスター					
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎					
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。					
科目概要	私達の生命活動は、巧妙なメカニズムでコントロールされています。この生命活動の基礎について学ぶのが生物学です。この授業ではヒトに関連する生物学の基礎的内容を中心に、生命に関する知識と関心を深めることを目的とします。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞のはたらきについて説明できる。 2. 遺伝子のはたらきとしくみについて説明できる。 3. 生命活動を調節するしくみについて説明できる。 4. 免疫のしくみについて説明できる。 5. 感覚のしくみについて説明できる。 6. 生命活動とエネルギーについて説明できる。 7. 生殖・発生のしくみについて説明できる。 8. 生物学に関連する先端技術について関心を高めることができる。 					
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：生命とは何か</p> <p>第2回：細胞－生命の基本単位</p> <p>第3回：遺伝子－生命の設計図</p> <p>第4回：体内環境と恒常性</p> <p>第5回：生命活動を支えるしくみ</p> <p>第6回：生命活動を調節するしくみ (1)</p> <p>第7回：生命活動を調節するしくみ (2)</p> <p>第8回：生命活動を調節するしくみ (3)</p> <p>第9回：中間のまとめとテスト</p> <p>第10回：生命を守るしくみ</p> <p>第11回：感覚のしくみ</p> <p>第12回：遺伝のしくみ</p> <p>第13回：生殖のしくみ</p> <p>第14回：発生のしくみ</p> <p>第15回：生物学の先端テクノロジー・まとめ</p>					
アクティブラーニング	授業では小テスト、整理問題を用いた自主学修、リフレクション課題に取り組みながら進めます。					
授業内の ICT 活用	WebClass を活用し、リフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答などを行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。					
評価方法	中間テスト (30%)、定期試験 (40%)、平常点 (30%) を総合的に評価します。平常点には小テストやレポートの成績、リフレクション課題への記述内容などが含まれます。なお、レポート未提出の場合は単位を修得できないことがあります。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	なし					

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	授業で使う資料は事前に配付しますので、事前・事後学修に活用して下さい。また、授業終了後に整理問題を提示する場合がありますので、理解度の評価に役立ててください。なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	熊澤武志 (看護学部 1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	日本語表現法				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋				
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎				
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。				
科目概要	日本語は、世界で最も難しい言語の一つである。それだけに、とても面白い言語だということも理解してほしい。ただし、やはり難しい言語であるので、しっかりした文法や決まりも理解しなければならない。それを理解した上で、説明文、レポート、小論文などの書き方を学び、学業において困ることがないようにすることを目的としたい。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の特殊性について理解する 2. 日本語の基礎的な表現を理解する 3. 敬語や手紙の文章を学び、使いこなせるようにする 4. レポート・論文の書き方について学び、活用できるようにする 				
授業計画	<p>授業計画 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : 日本語表現法概説1 <日本語とはどんな言語か、何を学ぶのか></p> <p>第2回 : 日本語表現法概説2 <日本語とはどんな言葉か、なぜ学ぶのか></p> <p>第3回 : 日本語の特徴<標準語と方言、書き言葉と話し言葉等></p> <p>第4回 : 日本語の言いまわし<日本語独特の表現・適切な表現></p> <p>第5回 : 主語と述語1 <助詞「は」と「が」></p> <p>第6回 : 主語と述語2 <助詞「が」と「を」、「も」・助動詞></p> <p>第7回 : 文章 (文と文のつながり) <文の接続と句読点></p> <p>第8回 : 敬語1 <敬語とは></p> <p>第9回 : 敬語2 <敬語用法の実際></p> <p>第10回 : 文章を書く1 <自分のことばで書く></p> <p>第11回 : 文章を書く2 <推敲を知る></p> <p>第12回 : 説明文<説明文を書く></p> <p>第13回 : 小論文<レポート・小論文を書く></p> <p>第14回 : 説明文・小論文<説明文・小論文の解説></p> <p>第15回 : 授業のまとめを行う。</p>				
アクティブラーニング	<p>○PBL (課題解決型学習)</p> <p>毎回、授業の最後に課題を行い、提出してもらう。</p>				
授業内の ICT 活用	Webclass を活用し、出席管理、授業前アンケート、リアペの提出、授業時の資料等を提供する。				
評価方法	<p>最終テスト (筆記) 60%、各時間の提出物 (リアクションペーパーも含む) の割合を 40%、合計 100%。</p> <p>なお、再試験は行わない。</p>				
課題に対するフィードバック	毎回の課題に対するフィードバックは、次の授業の最初に行う。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど、丁寧なフィードバックを心掛ける。				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	授業中に随時資料等を配付する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別

					／備考
事前・事後学修	課題に対するフィードバックを参考に、必ず復習をすること。目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	情報処理
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	Society 5.0 の時代を迎え、問題解決に係る情報の収集・整理・発信などのフェーズにおいて、ICT 機器を高いレベルで活用できるスキルが、業種や職種を問わず求められるようになってきた。本科目は、そのための準備段階と位置付け、問題解決に必要なパソコンの基本操作ができるようになることを目指す。具体的には、パソコン用 OS の一つである Windows やインターネットサービスの基本的な利用方法、事務系ソフトの代表格である Microsoft Office (Word, PowerPoint, Excel) の操作方法と基
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. OS (Windows) の基本操作ができる。 2. 電子メールや WWW などのインターネットサービスを利用することができる。 3. Word による基本的な文書作成ができる。 4. PowerPoint を用いた基本的なスライド作成ができる。 5. Excel を用いた基本的な表計算操作ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>津森 伸一, 隆 朋也, 竹本 石樹</p> <p>第 1 回: ガイダンス, Windows の基本操作, タッチタイピング</p> <p>第 2 回: Gmail (電子メール)・Google ドライブの基本操作</p> <p>第 3 回: Web ブラウザの操作方法と Web ページの閲覧</p> <p>第 4 回: Word の基礎知識, 文書の作成</p> <p>第 5 回: ページ設定と文書の印刷, 表の作成</p> <p>第 6 回: 文書の編集</p> <p>第 7 回: 表現力の向上</p> <p>第 8 回: PowerPoint の基礎知識, プレゼンテーションの作成</p> <p>第 9 回: 図やオブジェクトの挿入と編集</p> <p>第 10 回: 図表・グラフ・表の挿入と編集</p> <p>第 11 回: 特殊効果の設定</p> <p>第 12 回: Excel の基礎知識, データの入力・編集</p> <p>第 13 回: 表の作成 (関数の入力, 罫線と塗りつぶし, 表示形式等)</p> <p>第 14 回: 表の作成 (条件付き書式, 行の挿入や削除等)</p> <p>第 15 回: グラフと図形</p>
アクティブラーニング	本授業は、パソコンを用いた演習を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	パソコンを授業内の演習に用いるとともに、WebClass を用いて課題の提出等を行います。
評価方法	提出課題により 100%評価します。ルーブリックを用いた評価は行いません。また、再試験

	は実施しません.				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーはWebClass を用いて提出を行い, 教員より質問の回答やコメントを提示します.				
指定図書	杉本くみ子, 大澤栄子 著「30 時間アカデミック Office2021」				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
事前・事後学修	授業前に, 学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと (40 分). 授業後に, 授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみること (40 分).				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3517 研究室 時間: 毎週木曜日 9 時~12 時 上記以外でもメール(shinichi-t@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください.				
実務経験に関する記述	本科目は「ソフトウェア開発」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です.				
メディア授業の実施について					

科目名	データサイエンス入門				
科目責任者	隆 朋也				
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎				
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。				
科目概要	Society 5.0 の時代を迎え、デジタル社会においてはデータサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことが求められるようになる。本科目では、データ・AI の利活用に必要となる基礎的な知識・技能の修得を目指す。データ・AI 利活用が社会や日常生活にもたらす価値や変化を理解するとともに、これにともなうリスクについても学ぶ。また、データの特徴を読み解き可視化するための基礎的な手法を学び、パソコンソフトを活用してこれらの処理を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データ・AI 活用領域の広がり理解し、データ・AI を活用する価値を説明できる。 2. データ・AI を利活用する際に求められるモラルや倫理について理解できる。 3. データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを理解できる。 4. 適切なデータ可視化手法を選択し、他者にデータを説明できる。 5. R 言語を用いた基礎的なデータ解析・可視化ができる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>隆朋也、津森伸一</p> <p>第 1 回：ガイダンス、社会で起きている変化 第 2 回：データ・AI の活用領域 第 3 回：データ・AI 利活用のための技術 第 4 回：データ・AI を扱う上での留意事項 第 5 回：保健医療福祉教育分野でのデータ・AI 活用の最新動向 第 6 回：PC を用いたデータ活用、EZR の基本操作 第 7 回：データの種類とその活用 第 8 回：データの代表値 第 9 回：データのばらつき 第 10 回：データの解析方法 第 11 回：データの相関 第 12 回：クロス集計表 第 13 回：データの可視化 第 14 回：分析用データを用いた演習 データの説明・考え方 第 15 回：分析用データを用いた演習 分析作業</p>				
アクティブラーニング	WebClass を用いた教材提示や課題の授受を行う。				
授業内の ICT 活用	パソコンを用いた演習を行うので、該当回にはパソコンを持参すること。				
評価方法	リアクションペーパー20%、演習課題 80%				
課題に対するフィードバック	口頭や WebClass の機能を用いて行う。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
大学基礎 データサイエンス	伊藤大河	実教出版	1000	9.7844073612e+12	
参考図書	神田善伸『サラっとできる！フリー統計ソフト EZR (Easy R) でカンタン統計解析』オーム社				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別

					／備考
事前・事後学修	<p>事前学修：次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと。 事後学修：教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義・演習のポイントを整理しておくこと。 目安時間 40 分。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	<p>科目責任者（看護学部：隆）の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。</p>				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について					

科目名	英語 I
科目責任者	Donald Patterson
単位数他	1 単位 (30 時間) 看護学部・リハビリテーション学部・社会福祉学部・国際教育学部必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目では、大学レベルでの英語学習への導入として効果的な英語コミュニケーションを学ぶ。自信をもって口頭での意思伝達を図ることのできる学習者の養成が目的である。スピーキングとリスニングのスキルを重視した 4 技能 (聞く、話す、読む、書く) を総合的に育成する。人との出会い、旅行、文化等のテーマで日常的に使用される英語を聞き、テキスト、音声モデルに基づいて会話練習を行う。
到達目標	本科目の終了時には、学生は以下の能力を獲得していることを目標とする： Upon successful completion of the course, students are expected to be able to do the following things in English: Fill in forms with personal information such as name, age, date of birth, and nationality. Write
授業計画	<p><担当教員名> パターソン・ドナルド、倉本・クリスティーン、渥美陽子、ディニコラ・アン、アキオマ・ミリアン、ウィリアム・シーン・ギブ</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下は B クラスの例である。テキストは、クラス分け決定後に購入すること。</p> <p>第 1 回：プレイスメントテスト 第 2 回：Introduction to the course, Self-introductions (履修説明、自己紹介する) 第 3 回：People (Unit 1) 第 4 回：People (Unit 1) 第 5 回：Behavior (Unit 2) 第 6 回：Behavior (Unit 2) 第 7 回：Behavior (Unit 2) 第 8 回：Review & Mid-Term Test (まとめ、中間テスト) 第 9 回：Shopping (Unit 3) 第 10 回：Shopping (Unit 3) 第 11 回：Shopping (Unit 3) 第 12 回：Vacation (Unit 4) 第 13 回：Vacation (Unit 4) 第 14 回：Group Presentation グループ発表 第 15 回：Review & Final Test (まとめ、最終テスト)</p>
アクティブラーニング	Group learning, Role-plays, Online activities グループ学修、ロールプレイング、オンライン学習
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	Placement Test: 10%, Class Score (Assignments, Participation): 10%; Short Tests: 20%; Presentations: 20%; Mid-Term Tests: 20%; Final Test: 20% プレイスメントテスト 10%、クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、小テスト 20%、発表 20%、中間テスト 20%、最終テスト 20%
課題に対するフィードバック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント

ク					
指定図書	A、 B クラス = 『 World Link: Level 1 - Fourth Edition 』 (National Geographic) (ISBN 9780357502143) Student Book with Online Practice Cクラス 『 World Link: Intro - Fourth Edition 』 (National Geographic) (ISBN 9780357502105) Student Book with Online Practice				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	A、 B クラス = 『 World Link: Level 1 - Fourth Edition 』 (National Geographic) (ISBN 9780357502143) Student Book with Online Practice Cクラス 『 World Link: Intro - Fourth Edition 』 (National Geographic) (ISBN 9780357502105) Student Book with Online Practice				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	Online study, Reports. About 30 minutes to one hour per week. オンライン学習、レポート。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	英語Ⅱ
科目責任者	Donald Patterson
単位数他	1 単位 (30 時間) 看護学部・リハビリテーション学部・社会福祉学部・国際教育学部必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目の目的は、学生のコミュニケーション能力をさらに向上させ、より自律的な学習者を育成することである。英語Ⅰの学修内容を踏まえ、読解力、文章力、語彙力を重視した4技能(聞く、話す、読む、書く)を総合的に育成する。読解速度の向上を目指し、集中的に大量の文章を読みこなす力を身につける。短いメッセージ、電子メール、申請書類、および短い段落に必要なライティングスキルを練習する。また、中級から上級のクラスではTOEICの試験対策も行う。
到達目標	1. 初級クラスでは、基本的な英語の語彙と文章構造を理解し、日常的な内容について話された／書かれた文章を英語のまま理解し、簡単な質問に答えることができる。内容に沿った質問をすることができる。ロールプレイをスムーズに行うことができる。 2. 中級以上のクラスでは TOEIC の教材を活用し、より実用的で幅広い英語運用能力の修得を目指す。様々な意見、立場、価値観の違いを考慮した上で、適切な質問を投げかけ、自分の意見を簡潔に伝えることができる。TOEIC500 点以上の取得を目指す。 3. 個々の学修者に
授業計画	<担当教員名> パターソン・ドナルド、倉本・クリスティーン、渥美陽子、ディニコラ・アン、アキオマ・ミリアン、ウィリアム・シーン・ギブ <授業内容・テーマ等> 以下はBクラスの例である。テキストは、クラス分け決定後に購入すること。 第1回: Introduction to the course, Self-introductions (履修説明、自己紹介する) 第2回: The Mind (Unit 6) 第3回: The Mind (Unit 6) 第4回: The Mind (Unit 6) 第5回: City Life (Unit 7) 第6回: City Life (Unit 7) 第7回: City Life (Unit 7) 第8回: Review & Mid-Term Test (まとめ、中間テスト) 第9回: All About You (Unit 8) 第10回: All About You (Unit 8) 第11回: All About You (Unit 8) 第12回: Change (Unit 9) 第13回: Change (Unit 9) 第14回: Group Presentation (グループ発表) 第15回: Final test & Wrap up (最終テスト、まとめ)
アクティブラーニング	Group learning, Role-plays, Online activities グループ学修、ロールプレイング、オンライン学習
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	Class Score (Assignments, Participation): 10%; Short Tests: 20%; Presentations: 20%; Mid-Term Tests: 20%; Final Test: 30% クラスでの平常点(事前学習、授業態度)10%、小テスト20%、発表20%、中間テスト20%、最終テスト30% なお、TOEIC IP 受験者には、試験結果によって加算点を与える(ただし、受験希望者が少

	ない時はTOEIC IPが実施できない場合もある)。				
課題に対する フィードバック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント				
指定図書	A、 B クラス = 『 World Link: Level 1 - Fourth Edition 』 (National Geographic) (ISBN 9780357502143) Student Book with Online Practice Cクラス 『 World Link: Intro - Fourth Edition 』 (National Geographic) (ISBN 9780357502105) Student Book with Online Practice				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
参考図書	A、 B クラス = 『 World Link: Level 1 - Fourth Edition 』 (National Geographic) (ISBN 9780357502143) Student Book with Online Practice Cクラス 『 World Link: Intro - Fourth Edition 』 (National Geographic) (ISBN 9780357502105) Student Book with Online Practice				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
事前・事後学修	Online study, Reports. About 30 minutes to one hour per week. オンライン学習、レポート。学修時間の目安：事前学修 30分～1時間、事後学修 30分～1 時間程度。				
オープンエデ ュケーション の活用	なし				
オフィスアワ ー	時間については初回授業時に提示します。				
実務経験に関 する記述	なし				
メディア授業 の実施につい て	なし				

科目名	英語IV
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目は、保健医療福祉分野における臨床、および地域医療における多職種連携を想定し、目的別の英語 (ESP) をより実践的に学ぶ機会を提供する。「英語 I~III (ESP)」での学修内容を前提とする。異文化コミュニケーションの基本を学び、自身の所属する「文化」を相対的な視点で捉える練習を行う。多文化社会における保健医療の現状と課題を理解し、多様な背景を持つ地域住民、および患者に対するチーム医療に必要な英語コミュニケーションの基礎を学ぶ。ロールプレイ、プレゼンテーション等を通して、4 技能をバランスよく修得する。
到達目標	本科目の終了時には、学生は以下の能力を獲得していることを目標とする： Upon successful completion of the course, students are expected to be able to do the following in English: ・Understand Interprofessional Collaboration (IPC) and its current issues in English. ・Understand intercu
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 渥美 陽子 第 1 回: Introduction to the Course and Self-Introductions 第 2 回: Understanding Intercultural Communication 第 3 回: Understanding Intercultural Communication in Health Care 第 4 回: Understanding Barriers to Interprofessional Collaboration (IPC) and Intercultural Communication 1 第 5 回: Understanding Barriers to IPC and Intercultural Communication 2 第 6 回: Use of Tools to Facilitate Effective Communication and Collaboration 1 第 7 回: Use of Tools to Facilitate Effective Communication and Collaboration 2 第 8 回: Review and Test 1 (まとめ、テスト 1) 第 9 回: How to Tackle Challenges: Conflict Management and Negotiation 1 第 10 回: How to Tackle Challenges: Conflict Management and Negotiation 2 第 11 回: Group Work: Research Project (グループワーク) 第 12 回: Group Work: Research Project (グループワーク) 第 13 回: Group Work: Research Project (グループワーク) 第 14 回: Group Presentation (グループ発表) 第 15 回: Review and Test 2 (まとめ、テスト 2) *初回授業には必ず出席してください。
アクティブラーニング	Group activities, role-plays, presentations, and the use of Google Classroom will be incorporated into the class. グループ学習、ロールプレイ、プレゼンテーション、Google Classroom を取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	・ICT 機能を利用して、授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する。 ・事前・事後学習、授業内で利用するマルチメディア教材を提供する。 ・Google 機能を用いてグループ発表の準備・発表を共同編集・同時参加型にする。 ・Quizlet (オンライン単語学習ツール) を活用し、授業外の学習を促進する。
評価方法	クラスでの平常点 (事前学習、授業参加度) 10%、小テスト 20%、中間テスト 20%、発表・課題 30%、期末テスト 20%
課題に対するフィードバック	Explanations of tests, as well as comments on presentations and reports, will be provided. 小テスト・テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント

指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	書名：『Cultural Sensitivity Training: Developing the Basis for Effective Intercultural Communication』、著者：Susann Kowalski、出版社：econcise、出版年：2023年					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	Google Classroom segments, paper reports. About 30 minutes to 1 hour per week. Google Classroomによる課題（動画を含む）、レポート。学修時間の目安：事前学修30分～1時間、事後学修30分～1時間程度。					
オープンエデュケーションの活用	UCSF IPE Program https://www.youtube.com/channel/UCjsbTqos6SDEpL90i_28xZQ					
オフィスアワー	初回授業時に提示する。					
実務経験に関する記述	なし					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	英語V					
科目責任者	Donald Patterson					
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎					
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。					
科目概要	<p>本科目の目的は、保健医療福祉に関する英語での研究力、および学術的な文章を作成するための基礎スキルを養成することである。英語 I ～IVまでの学修内容を踏まえて展開する。学術文献に特徴的な文章構造を学び、医療関連の語彙力を強化する。様々なパラグラフとエッセイの読み書きを練習し、研究領域（社会福祉、リハビリ、看護）のトピックについて基礎的な研究を行う。結果は英語で発表する。将来、海外実習・留学・大学院への進学等を考えている学生には、特に履修を薦める</p>					
到達目標	<p>Upon successful completion of the course, students are expected to be able to do the following in English:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Read and understand short texts related to their health-care field. • Summarise, report and give their opinion about accumulated factual information 					
授業計画	<p><担当教員名> パターソン・ドナルド <授業内容・テーマ等> 第1回: Introduction to the course, Self-introductions, Freewriting 第2回: Skimming and Scanning; Identifying the Main Idea; Note-taking 第3回: Summarizing; Vocabulary Strategies 第4回: Summarizing; Plagiarism 第5回: Abstract Reading and Writing 第6回: Presentation; Paragraph Writing 第7回: Mid-Term Test, Paragraph Writing Continued 第8回: Peer Feedback; Graphs, Tables, and Statistics 第9回: Research Essay Structure; Choosing a Topic 第10回: Presentation; Essay Thesis Statements and Outlining 第11回: Essay Introductory and Concluding Paragraphs 第12回: Peer Feedback; Group Work Research Project (グループワーク) 第13回: Group Work Research Project (グループワーク) 第14回: Group Presentation (グループ発表) 第15回: Final Test, Wrap up (最終テスト、まとめ)</p>					
アクティブラーニング	グループ学修、プレゼンテーション、グループでの振り返り、Google Classroomの活用					
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。					
評価方法	クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、小テスト 10%、課題提出 20%、発表 20%、中間 20%、最終テスト 20%					
課題に対するフィードバック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント					
指定図書	資料配布					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	資料配布					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別	

					／備考
事前・事後学修	Google Classroom segment, Reports. About 30 minutes to 1 hour per week. Google Classroom によるリスニング課題、レポート。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。 研究室：5704 号室 メール：patterson@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	中国語
科目責任者	方 健
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋 ※2 年次生以上のみ履修可能
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	中国語を始めて学ぶ人を対象として、中国語の基本語彙、文法を勉強しながら、実際にも応用できるように日常会話を繰り返し練習する。学生同士で中国語を使って会話する授業も行う。また中国人のものの考え方を紹介して中国の文化を理解する上に中国語の表現方法を習得する。
到達目標	1. 挨拶言葉を言える。 2. 母音、子音、声調を正確に発音ができる。 3. 学習内容（単語及び文法）を把握する。 4. 中国語で簡単な日常会話ができる（先生からの質問に中国語で答える）。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：単母音、声調（四声）を繰り返して発音して中国語の発音の特徴を把握する。 第 2 回：複母音（二重母音、三重母音）、鼻母音の発音を練習して覚える。 第 3 回：子音の発音を練習して無気音と有気音の違いが聞き取れるようにする。 第 4 回：初対面の挨拶、自己紹介ができるようにする。 第 5 回：判断文を使って物の名前や人の名前を聞いて簡単な会話を練習する。 第 6 回：動詞文の作り方を把握し、よく使っている動詞の語彙を覚える。 第 7 回：動詞を使う日常会話を作ってその日常会話を言える、また聞き取れるようにする。 第 8 回：百以下の数の数え方と時間詞（年、月、日、曜日、時）を覚える。 第 9 回：時間詞の使い方を把握して、時間の尋ね方を覚える。 第 10 回：把握している単語と文法を使って実用的な会話の練習をする。 第 11 回：連動文の作り方を把握し、もっと中国語で細かく表現ができるようにする。 第 12 回：語気助詞「吧」を使って人を誘う表現を覚える。 第 13 回：所有文の作りを学び、家族の呼びかけを覚えて家族を紹介できるようにする。 第 14 回：存在文と選択疑問文の作り方を把握し、学校や日本の事を紹介する。 第 15 回：教科書とプリントを使って、総復習する。
アクティブラーニング	講義中心の科目です。
授業内の ICT 活用	無し
評価方法	小テスト（計 5 回）の成績を 50%、定期試験の成績を 50%の割合で成績を評価する。
課題に対するフィードバック	小テストの回答を webclass にアップロードし、また実施後の授業中に解説をする。

指定図書	以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
Let's try! すぐに使える カンタン中国語	宮本大輔	朝日出版社	2100	9.7842554524e+12		
参考図書	以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
はじめての中国語学習辞典 新装版	相原茂／編著	朝日出版社	2800	9784255012230		
事前・事後学修	授業前に 教科書や配布した授業用の資料を予習、復習すること (各 20 分 13 回) 授業後に 配布した復習資料を利用して発音、書く練習を繰り返す。(各 50 分 13 回)					
オープンエデュケーションの活用	無し					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	無し。					
メディア授業の実施について	実施しない。					

科目名	外国語					
科目責任者	—					
単位数他	1 単位 (30 時間)					
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎					
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。					
科目概要	本学の教育課程にある外国語科目（英語Ⅰ、英語Ⅱ、中国語）以外の外国語科目を、放送大学で履修し習得した場合に、本科目の単位として認定します。					
到達目標	—					
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>2024 年度に放送大学で開講する科目でも、この科目で単位認定できるのは定期試験期間が重複しない科目のみです。詳細は、7 月（秋セメスター対象）、1 月（次年度春セメスター対象）に共通科目掲示板に掲載する募集チラシをご確認ください。</p>					
アクティブラーニング	—					
授業内の ICT 活用	—					
評価方法	—					
課題に対するフィードバック	—					
指定図書	—					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	—					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	—					
オープンエデュケーションの活用	—					
オフィスアワー	—					
実務経験に関する記述	—					
メディア授業の実施について	—					

科目名	海外研修
科目責任者	Donald Patterson
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	海外で諸文化等に触れることで、その国の保健医療福祉事情を知り、異文化や価値観の多様性などの学びを通して、グローバルな視野を養うことを目指します。さらに、保健・医療・福祉の視点で、異なる専門職を目指す学生との交流を通し多職種連携の意義について考えます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的な視野で保健医療福祉を考えるきっかけとする。 2. 保健・医療、看護、社会福祉の問題に関するグローバルな視点に立った思考や活動へのきっかけとする。 3. 研修を行う国の生活や文化に直接触れることで、人間・社会・環境への理解を深める。 4. 研修を行う国の人々とのコミュニケーションをとることができる。 5. 英語能力を高めること。
授業計画	<p><担当教員名> パターソン・ドナルド、倉本・クリスティー、渥美陽子、他</p> <p><授業内容・テーマ等> 本学交流協定締結校であるナンヤン理工学院（シンガポール研修）、第三軍医大学（中国研修）を拠点に行う研修に参加するために事前研修・研修前準備を行い、研修後に課題レポートを提出する。</p> <p>I. 事前研修 研修を行う国の概要や保健医療福祉の現状、教育制度等について学習する。 研修を行う国の文化・習慣について学習する。 研修先施設の概要について調べる。 英語による自己紹介やコミュニケーションのとり方を練習する。 国際人に求められるマナーや態度を理解する。</p> <p>II. 研修前準備（研修に必要な書類の作成） 渡航手続き書類を準備する。 研修参加目的や自己紹介等の文書を英語で作成する。</p> <p>III. 海外研修 1. 研修先 シンガポール研修（受け入れ機関 ナンヤン理工学院） 中国研修（受け入れ機関 第三軍医大学） 2. 期間 シンガポール：9日間 中国：8日間</p> <p>IV. 課題レポートの作成 研修の内容をレポートにまとめ、提出する。 海外研修報告会に参加する。</p>
アクティブラーニング	グループ学修、ロールプレイング、オンライン学習
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	事前研修 30%、海外研修時の態度・知識の評価 40%、課題レポート 30%
課題に対するフィードバック	レポート・プレゼンテーションのコメント

指定図書	資料配布				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修は、自国の保健・医療・福祉の事情について説明できることや研修先について事前に調べることが必要です。事後学修は、研修内容をこれからの保健・医療・福祉実践に活用できるように整理しておくことです				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	海外研修
科目責任者	Donald Patterson
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	海外で諸文化等に触れることで、その国の教育事情を知り、異文化や価値観の多様性などの学びを通して、グローバルな視野を養うことを目指します。さらに、教育・保育の視点で、異なる専門職を目指す学生との交流を通し多職種連携の意義について考えます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的な視野で教育を考えるきっかけとする。 2. 教育の問題に関するグローバルな視点に立った思考や活動へのきっかけとする。 3. 研修を行う国の生活や文化に直接触れることで、人間・社会・環境への理解を深める。 4. 研修を行う国の人々とのコミュニケーションをとることができる。 5. 英語能力を高めること。
授業計画	<p><担当教員名> Donald Patterson、二宮貴之、渥美陽子、Christine Kuramoto、他</p> <p><授業内容・テーマ等> 本学交流協定締結校であるシアトルパシフィック大学（アメリカ教育研修）を拠点に行う研修に参加するために事前研修・研修前準備を行い、研修後に課題レポートを提出する。</p> <p>I. 事前研修 研修を行う国の概要や教育制度等について学習する。 研修を行う国の文化・習慣について学習する。 研修先施設の概要について調べる。 英語による自己紹介やコミュニケーションのとり方を練習する。 国際人に求められるマナーや態度を理解する。</p> <p>II. 研修前準備（研修に必要な書類の作成） 渡航手続き書類を準備する。 研修参加目的や自己紹介等の文書を英語で作成する。</p> <p>III. 海外研修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修先 アメリカ教育研修（受け入れ機関 シアトルパシフィック大学） 2. 期間 2025 年 3 月（10 日間） 3. 対象 社会福祉学部こども教育福祉学科／国際教育学部 1～3 年次生 <p>IV. 課題レポートの作成 研修の内容をレポートにまとめ、提出する。 海外研修報告会に参加する。</p>
アクティブラーニング	グループ学修、ロールプレイング、オンライン学習
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	事前研修 30%、海外研修時の態度・知識の評価 40%、課題レポート 30%
課題に対するフィードバック	レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	資料配布

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修は、自国の教育・保育の事情について説明できることや研修先について事前に調べる必要があります。事後学修は、研修内容をこれからの教育・保育実践に活用できるように整理しておくことです。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	ブラジル文化と言語				
科目責任者	AKIOMA MIRIAM				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋				
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	日本で二番目に多くブラジル人が居住している都道府県は静岡県です。そこで私たちの身のまわり、学校、会社、食品店など、ブラジル人は大変身近な存在となっています。本授業では日本人とブラジル人の相互理解を深めることを目的として、ブラジルの文化やブラジル人の母語であるポルトガル語を学習します。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のブラジル人を身近と感じられるようになること。 2. ポルトガル語で簡単な会話ができること。 3. 基本的なポルトガル語文法が理解できること。 4. 言語だけでなく、ブラジルの社会や日本のブラジルコミュニティについても把握すること。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション（ブラジル文化紹介） 第2回：アルファベット・発音・数字 第3回：自己紹介ができる「Oi, tudo bem? について」 第4回：挨拶の表現、文法（SER 動詞） 第5回：好きなもの（GOSTAR 動詞） 第6回：好きなもの（（スポーツ、色、行動について） 第7回：グループワーク（ブラジルの地方について） 第8回：発表（ブラジルの文化、料理、スポーツ） 第9回：中間テスト 第10回：家族を紹介できる「ブラジルの家庭・生活について」 第11回：家族を紹介できる「所有代名詞」 第12回：グループワーク（日本にあるブラジル人コミュニティーについて） 第13回：発表（ブラジル人コミュニティーの活動） 第14回：Vamos（～ましょう）、時刻。 第15回：コースまとめ、復習</p>				
アクティブラーニング	グループ学修、ロールプレイング、オンライン学習				
授業内の ICT 活用	<p>現状把握の補助、ならびに、知識の定着をはかるために、授業テーマに関連する動画を視聴する。ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。</p> <p>ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。</p> <p>グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。</p>				
評価方法	中間テスト 30%、期末試験 30%、課題提出物 20%、発表 20%				
課題に対するフィードバック	アサインメント・レポート・プレゼンテーションのコメント				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
ポア・ソルチ！ 会話で学ぶブラジル・ポル	.	朝日出版社	2300	9. 78425555e+12	
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別

					／備考
事前・事後学修	オンライン学習、クイズ、レポート。学修時間の目安：事前学修 30分～1時間、事後学修 30分～1時間程度。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	現代の国際社会				
科目責任者	馬場 孝				
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋				
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	「現代の国際社会」の諸側面に、国際関係論と国際関係史の二つの角度からアプローチする授業です。前半が理論編、後半が歴史編です。前半では社会現象をどのように捉えるかというツールのいくつかを紹介し、国際社会の諸現象の分析を行います。後半は簡単に読みやすいテキストを手がかりに、資料、映像、講義で補いつつ、第2次大戦後の国際社会の流れをつかむことを目標とします。				
到達目標	1. 国際社会をとらえる理論的なアプローチの基本を理解する 2. 第2次世界大戦以後の国際関係の大きな流れの大筋をつかむ 3. 現代の国際社会が直面する課題について関心を持つ				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：現代はどのような時代か？ 授業全体ならびにテキストへの導入 1章 <理論編></p> <p>第2回：「国際社会」とは？ その本質と特徴</p> <p>第3回：国際関係論における分析のレベル</p> <p>第4回：世界システム論の射程</p> <p>第5回：グローバルサウス論</p> <p>第6回：戦争の原因について</p> <p>第7回：ゲームの理論の概略と国際関係</p> <p>第8回：ゲームの理論の適用事例：朝鮮半島情勢とインドシナ戦争 10章、11章 <歴史編></p> <p>第9回：冷戦の起源 2章、3章、4章</p> <p>第10回：冷戦のアジアへの波及 5章、6章</p> <p>第11回：パレスチナ問題 7章 キューバ危機 8章</p> <p>第12回：激動の中国 文化大革命から改革・開放へ：9章、14章</p> <p>第13回：冷戦の終結とソビエト連邦の崩壊：12章、13章</p> <p>第14回：「地球化」時代へ：相互依存の深化 15章、16章</p> <p>第15回：統合と分裂の世界：17, 18章 まとめ</p>				
アクティブラーニング	全体的に講義においてはグループ・ディスカッション方式を活用する。理論編では「国際社会の特色をどのように捉えるか」「ゲームの理論の体験」の2回において海外の授業（国際関係論）で紹介されている方法を試みる。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み（課題の提出を含む）30%、筆記試験70%				
課題に対するフィードバック	課題、小テストの解答、ディスカッションへのコメントはすべて授業中に行う。				
指定図書	池上彰『そうだったのか、現代史』集英社文庫、2007年。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	授業中に指示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	「理論編」では配布資料の事前、事後の講読ならびに「歴史編」開始時までにテキストを一読しておくことを課題とする。また「歴史編」では進行に応じて章ごとの課題提出が求められる。1回の授業あたり40分を目安とする。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	文化人類学				
科目責任者	佐藤 弘明				
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春				
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	ともすれば私たちは自らの社会が世界の中心と考えたがる。しかし、人類ほど多様な自然環境、多様な社会文化的環境下で生活する生物はいない。自らの社会・文化をこのような相対的視座から理解することは現代の社会文化環境下では必須である。本科目は人類の多様な生活様式・社会組織・制度・医療等の例示を通して、日本を含めた人間社会・文化の理解を図る。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの進化を説明できる。 2. 人間の生活様式に関する基礎知識を獲得する。 3. 人間の社会構造について説明できる。 4. 現代日本の家族に関する知識を習得する。 5. 医療文化に関する知識を習得する。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ヒトの進化（進化とは何か）</p> <p>第2回：ヒトの進化（生物としてのヒト）</p> <p>第3回：ヒトの環境（文化をもつ人間の行動）</p> <p>第4回：“人種”と民族（ヒトの違いとは）</p> <p>第5回：生業と社会（狩猟採集社会と農耕社会）</p> <p>第6回：人類の社会集団（基礎的集団と機能的集団）</p> <p>第7回：人類諸社会の婚姻・家族・親族（1）</p> <p>第8回：人類諸社会の婚姻・家族・親族（2）</p> <p>第9回：現代日本の家族（1）（日本の家族とその変化）</p> <p>第10回：現代日本の家族（2）（日本の家族とその変化）</p> <p>第11回：少子高齢社会（現代日本で進行する少子化・高齢化）</p> <p>第12回：医療と文化（1）（病と疾病）</p> <p>第13回：医療と文化（2）（病の認知）</p> <p>第14回：医療と文化（3）（保健行動）</p> <p>第15回：医療と文化（4）（現代医療と民俗医療）</p>				
アクティブラーニング	なし				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	<p>定期試験 100%の結果で評価する。ただし、受講態度（出席、質問等）を加点要素とします。</p> <p>定期試験の成績しだいでは、授業中作成したノートの提出を求めることがある。</p>				
課題に対するフィードバック	定期試験の解答例を提示します。				
指定図書	使用しない。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	授業中、随時知らせます。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノートの再読が必要です。少なくとも30分はかけてください。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際支援入門				
科目責任者	柴本 勇				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	保健医療福祉教育の発展が著しい現代社会であるが、ひとたび世界的視点で考えると各国や地域で状況が異なる。各国間での相違は、その国の歴史・経済・価値観・宗教観などを基本としている。グローバル社会で活躍する上では、これら各国や地域の状況を理解して臨機応変に対応できる基本的対応力やコミュニケーション力が求められる。また、支援活動を実行する上では、現実的かつ有効的な計画立案が求められる。本科目では、将来それぞれの国、地域で保健医療福祉教育の専門家として活動する基礎を学ぶ。加えて、現在世界各地で行われている国際協力活				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者を全人的に受け入れ、共にコミュニケーションをとり活動できる。 2. 現在各国で行われている国際協力活動の実際を紹介できる。 3. 本学が実施している国際プロジェクトを説明でき、活動に参加する。 4. 持続可能な開発目標 (SDG s) について説明できる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： オリエンテーション・グローバル社会と国際支援活動</p> <p>第2回： 国際社会で活躍する専門職として必要な基本的知識と態度 (ディスカッション)</p> <p>第3回： 本学国際プロジェクトとその発展 (グループワーク)</p> <p>第4回： 本学国際プロジェクトとその発展 (各グループから提言発表)</p> <p>第5回： 国際協力の実際について調査 (グループワーク)</p> <p>第6回： グループワーク・フィールドワーク①</p> <p>第7回： グループワーク・フィールドワーク②</p> <p>テーマ：保健医療福祉教育職が行う支援</p> <p>以下の2つのいずれかを選択し、第8回目に発表。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>グループで保健医療福祉教育専門家として行う国際プロジェクトを設定し、以下の3つの役割を決めてディスカッションし、その経過や状況を発表。</p> <p>①「支援を提供する側」：支援を提供する側として準備や具体的活動内容を検討提案</p> <p>②「支援を受ける側」：支援を受け入れる側として準備や具体的活動内容を検討</p> <p>③「国際支援を調整する機関 (NGO・国の機関・大学) 側」：本プロジェクトを成功するためにどのような調整をするのかを検討し提案</p> <p>【フィールドワーク】</p> <p>学外に出かけ、自身のグループが解決できそうな課題を見出し、その解決方法を提案する。</p> <p>第8回： 各グループからの提言発表。国際支援についてクラス全体討議。</p>				
アクティブラーニング	グループ学修・ディスカッション形式で行います。				
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。必要に応じて、オンラインを用いて実施します。				
評価方法	<p>グループワーク 30%、課題レポート20%、事後レポート30%、グループ発表20%</p> <p>グループワークとレポートは、ルーブリックに基づいて確認する</p> <p>※授業への出席が2/3に満たないものは、レポート提出やグループ発表をしたとしても単位医取得できません。</p>				
課題に対するフィードバック	毎回の講義後にはリフレクション時間を設け、ディスカッションを行います。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	WebClass を利用して、学修課題等を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	研究室：3号館 4階 3408 研究室 オフィスアワー：初回講義時に提示します。 ※随時メールでの質問を受けます。メール：isamu-s@seirei.ac.jp ※オフィスアワー以外の時間でも遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際支援論					
科目責任者	下澤 嶽					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎					
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。					
科目概要	近年グローバル化が進む世界ではあるが、途上国ではいまだに貧困・格差・疾病・教育・紛争などで苦しむ人々が多数存在し、国際社会として課題を考える必要に迫られている。本科目では、こうした課題に対する国際協力や開発援助がどのように発展してきたか歴史を通して学ぶと同時に、具体的方法や手法等について学ぶ。また、多様なプレーヤーがどのように生まれ、役割分担と協調がどのように行われているのかも学んでいく。 ※本科目の履修に先立ち、1 年次春セメスター開講の「国際支援入門」を履修することが望ましい。					
到達目標	1. グローバル社会での各国や各地域で課題を抽出できる。 2. 国際支援の歴史を説明できる。 3. 国際協力・開発援助について具体的に説明できる。 4. 国際支援の未来の在り方を考える基盤を学ぶ。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回： オリエンテーション・国際協力・国際支援の歴史 第2回： 貧困の考え方 経済開発と社会開発 第3回： 世界の政府開発援助 (ODA)、日本の政府開発援助 (ODA) 第4回： 国際支援における NGO の活動と役割 第5回： 国際支援の具体的方法・手段 ① 第6回： 国際支援の具体的方法・手法 ② 第7回： 国際支援の課題と新たな協調へ 第8回： 国際支援の未来像と可能性、SDGs の持つ意味					
アクティブラーニング	講義を中心に行う。また、質問、ワークを交えて、アクティブで授業展開を心がけます。					
授業内の ICT 活用	特になし					
評価方法	授業中のレポート 30%、小テスト・最終テスト 70%					
課題に対するフィードバック	質問を提出させ、わかりにくいところを、フォローします。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	適宜紹介する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	なし					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	なし					

実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際支援アクティブラーニング I				
科目責任者	柴本 勇				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 2 年次春semester～2 年次秋semester開講				
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	<p>本科目は、国際支援活動を行っている本学の国内プロジェクトに受講学生が参加し、実践活動を通じて国際支援の概念、活動方法、活動評価法などを主体的に学ぶ。また、支援活動を通じて、対人援助の概念、国際文化や日本文化の理解、語学力の向上も図る。自ら課題の抽出から開始し、活動の企画、提案、実行、振り返りを行う。主体的実践学習を通じて、保健医療福祉教育領域で活動する専門職として課題解決方法を教授する。</p> <p>※本科目の履修に先立ち、1 年次春semester開講の「国際支援入門」を履修することが望ましい。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者を全人的に受け入れ、共にコミュニケーションをとり活動できる。 2. 保健医療福祉教育の専門職者として国際支援ニーズを抽出することができる。 3. 国際支援プロジェクト活動で課題解決に向けて実践することができる。 4. 国際支援プロジェクトでの支援内容と方法を主体的活動から理解し説明することができる。 				
授業計画	<p><担当教員名> 柴本勇 木村暢男 渥美陽子 水野尚美 高橋大生</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 (全体) : 国際支援活動を通じた人への奉仕とその実践 第 2 回 (全体) : 国際支援活動におけるリスクとその対応 第 3～13 回 : 支援活動の実施</p> <p>■プロジェクト 1 : 地域で暮らす外国人支援</p> <p>本プロジェクトでは、多国籍の在留外国人に正確な情報提供できるように、多言語の Website を運用する。コンテンツは、法律、医療、教育、市民サービス、ごみの出し方などの生活に関すること、文化、歴史、飲食店情報、イベント情報などの情報提供を行う。また、浜松地区の大学の留学生と交流会を開催し、交流、情報提供、情報収集を行う。</p> <p>■プロジェクト 2 : インド保健福祉支援活動プロジェクト</p> <p>インド聖隷希望の家の働きや支援のためのニーズを理解して、自分たちができる支援方法を検討・計画して実践する。インターネット電話等を用いて、施設長・利用者の人々と対話をしながら現状理解を行い、支援計画を作成し、実行する (人道的支援、情報提供など)。</p> <p>第 14～15 回 (全体) : 活動報告会、まとめ</p>				
アクティブラーニング	ゼミ形式で行う演習科目です。				
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションを、プロジェクターを利用して行います。				
評価方法	実践準備 (20%)、 活動内容 (50%)、 報告会の内容 (20%) レポート (10%)				
課題に対するフィードバック	毎回の実践に合わせてフィードバックを行います。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各回の実践に合わせて活動計画、振り返りが必要となります。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	各教員が初回実習活動時にお知らせします。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際支援アクティブラーニングⅡ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位 30 時間 選択 2 年次春semester～2 年次秋semester開講
DP 番号と科目領域	DP 7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	<p>本科目は、本学の国外プロジェクト（カンボジア、ベトナム、アメリカ）に受講学生が参加し、主体的実践活動を通じて国際支援について学ぶ。本科目は、国外で実施し、受講学生は対象国の歴史、文化、危機管理、安全対策、語学、対人援助の概念から、具体的支援の抽出、立案、実行までを主体的実践活動を通じて学ぶ。歴史や文化の異なる地域で、各々の専門分野を超えた本質的な支援活動の理解と実践、コミュニケーション力、リーダーシップを教授する。</p> <p>※本科目の履修に先立ち、1 年次春semester開講の「国際支援入門」を履修することが望ま</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者を全人的に受け入れ、共にコミュニケーションをとり活動できる。 2. 保健医療福祉教育の専門職者として国際社会のニーズを現地で抽出することができる。 3. 国際支援プロジェクト活動で課題解決に向けて実践することができる。 4. 国際支援プロジェクトでの支援内容と方法を主体的活動から理解し説明することができる。
授業計画	<p><担当教員名> 柴本勇 鈴木光男 大原重洋 内藤智義 渥美陽子 <授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回（全体）：国際支援活動を通じた人への奉仕とその実践 第 2 回（全体）：国際支援活動におけるリスクとその対応 第 3～13 回：支援活動の実施</p> <p>■カンボジア JH プロジェクト（プロジェクトリーダー・鈴木光男教授） 本プロジェクトでは、ジャパンハート病院（カンボジア）での生活・体験を通して、現地のヘルスシステム、医療、健康、社会福祉、保育・教育などの問題を把握し、住民の医療・健康・教育の向上のために看護やリハビリテーション、福祉、教育の機能を発揮できるように主体的・能動的に現地のスタッフや患者、住民などに関わることを主たる目的・内容とする。これらの国際支援実践を通して、それぞれの専門性について考え、自らの専門職観を深めるものである。また、国際医療・保健・福祉に携わる専門職にふさわしい生活態度やマナーを身につけると共に、自分の健康と安全を管理する方法を身につける。</p> <p>■ベトナム保健福祉支援プロジェクト（プロジェクトリーダー・柴本 勇教授） 現地法人とともに、本学の教員、学生が、ベトナムで実践型海外医療ボランティアインターンシップを行い、国際医療支援について考え、看護、社会福祉、リハビリテーションが協働して国際医療支援の経験を積むことが主な内容である。ベトナムの医療システムが未発達な地域で、現地の看護師、リハビリテーション技士の元、患者の評価や治療の手伝い、患者の生活の支援をする。支援の対象となるベトナムの患者にとっても意味のあるものであり、現地スタッフのみならずの現地住民とのコミュニケーションのなかで、「生命の尊厳と隣人愛」を学ぶ。</p> <p>■アメリカ地域支援実践プロジェクト（プロジェクトリーダー： 大原重洋教授） このプロジェクトでは、アクティブラーニングの手法を用いて、海外（アメリカハワイ州）の保健医療福祉施設（St. フランシス保健福祉医療システム）におけるボランティア活動を計画し、実践する。一連の活動を通じて、奉仕の精神と、対人援助についての普遍的な価値観と手法を学ぶ。</p> <p>第 14～15 回（全体）：活動報告会、まとめ</p>
アクティブラーニング	ゼミ形式で行う演習科目です。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションを、プロジェクターを利用して行います。
評価方法	実践準備（20%）、活動内容（50%）、報告会の内容（20%）、レポート（10%）

課題に対する フィードバック	毎回の実践に合わせてフィードバックを行います。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	随時紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	実践活動に向けた活動準備、活動期間中の振り返りが必要となります。				
オープンエデュケーション の活用	なし				
オフィスアワー	各教員が初回実習活動時にお知らせします。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業 の実施について	なし				

科目名	国際保健医療福祉論
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 看護学部：専門 社会福祉学部：専門 リハビリテーション学部：専門基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国際保健・医療・福祉の概念や理論、諸問題やその解決方法を学ぶ。後半は参加型の開発を踏まえ、自らの実践を考察するグループワークを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際保健・医療・福祉とは何か、現状と課題について概略を述べることができる。 ・講義で取り上げた地球規模の問題やこれからの日本の保健・医療・福祉のあり方について意見を述べることができる。 ・国際的な保健・医療・福祉の問題に関心が持てるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：現在のグローバルヘルスの現状と課題 根地嶋誠・ゲストスピーカー 現在のグローバルヘルスの現状と課題について説明する。</p> <p>第 2 回：国際保健医療福祉との関わり方 根地嶋誠・ゲストスピーカー 途上国で障害者が直面する課題などの保健医療福祉について、どのような関わりがあるか説明する。</p> <p>第 3 回：社会と健康 江口晶子 国際社会が抱える問題と人々の健康との関わりを通して、国際保健に求められる視点を考える。</p> <p>第 4 回：在日外国人の医療 江口晶子 在日外国人の医療を取り上げ、課題解決について考える。</p> <p>第 5 回：健康の社会的決定要因および BPS モデル 佐々木正和 健康の社会的決定要因 (SDH: Social determinants of Health) および BPS (Bio-Psychosocial) モデルから健康格差とくらしを説明する。</p> <p>第 6 回：貧困と社会的問題および社会排除 佐々木正和 貧困と社会的問題および社会的排除の関係性について説明する。</p> <p>第 7 回：障害の社会モデルと分析の視点 根地嶋誠 障害を理解する枠組みとして社会モデルを提示し、障害問題をどのように分析していくかの視点を説明する。</p> <p>第 8 回：地域に根差したリハビリテーション (CBR) に基づくプロジェクト立案 根地嶋誠 地域に根差したリハビリテーション (CBR) に基づき、途上国でのプロジェクトを PBL にて立案する。</p>
アクティブラーニング	本授業は、PBL を用いたグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	レポート (40%)、グループワークへの参加度 (20%)、プレゼンテーション (40%)
課題に対するフィードバック	グループワークや小テストにおいて学修状況を適宜把握し、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスをを行う。

ク						
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前にWebclass に掲示された資料を確認してください (第1～8回：各20分) ・ 授業後はポートフォリオを作成し、授業内容の復習をしてください。また、関連する国際関連の情報を調べ、理解を深めてください (第1～8回：各20分) 					
オープンエデュケーションの活用	WHO https://www.who.int/ 国際リハビリテーション協会 https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/glossary/RI.html					
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3505 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (makoto-n@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。					
実務経験に関する記述	本科目は「保健師、社会福祉士、作業療法士、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	国際コミュニケーション演習					
科目責任者	根地嶋 誠					
単位数他	1単位 (30時間) 選択 5セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 看護学部：専門 社会福祉学部：専門 国際教育学部：専門 DP3 リハビリテーション学部：専門基礎					
科目の位置付	看護学部・社会福祉学部：地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。 リハビリテーション学部：様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。					
科目概要	国内外における保健医療福祉現場を想定した実践活動を、英語を用いて演習を行う。本科目の前提科目として国際支援アクティブラーニングⅠおよびⅡ、英語Ⅳの履修を必要とする。また、本科目は各学部の国際研修及び実習につながる科目である。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に演習課題に取り組み、積極的にコミュニケーションを取ることができる。 各領域の国際的な実践活動でよく使用される英語を理解することができる。 英語を使用して対象者に必要な情報を提供することができる。 国際研修・実習および保健医療福祉における想定された場面設定において、英語によるコミュニケーションを取ることができる。 					
授業計画	<p><担当教員>根地嶋誠, Donald Patterson, 水田明子, 太田知実, 渥美陽子, 小畑美穂, 鈴木達也, 高橋大生, Kuramoto Christine Dianne, 全員で担当する。</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：コースオリエンテーション 授業の進め方や目標の理解</p> <p>第2回：国際研修・実習を想定したコミュニケーション 国際研修・実習に参加するために必要となるコミュニケーションの理解と実践 (渡航のための情報収集, 移動・宿泊食事・研修施設でのコミュニケーションなど)</p> <p>第3～8回：各領域における実践のための学修および準備 各領域において、想定された実践活動について、学修し理解を深める。実践活動の企画をする。(例：挨拶・問診・血圧測定などの臨床技能試験, 地域での英語による健康講座等の開催)</p> <p>第9～11回：各領域における実践のリハーサル 各領域において、実践活動のリハーサルを行い、修正を図る。</p> <p>第12～14回：各領域における実践 各領域において、実践活動を行う。</p> <p>第15回：まとめ 実践活動を振り返り、改善点を明らかにする。活動をプレゼンテーションする。</p>					
アクティブラーニング	想定された課題に対しどのように取り組み解決するか、PBLにて実践する。					
授業内の ICT 活用	Webclass により課題の管理をする。					
評価方法	リフレクションペーパー30%, グループワークへの参加貢献度 30%, プレゼンテーション 40%					
課題に対するフィードバック	リフレクションペーパーおよびグループワークの実践に対し適宜フィードバックをする。					
指定図書	なし (資料は講義中に必要に応じて提示する)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	示された課題に対し、グループまたは各自で英語によるコミュニケーションや臨床技能を練習しておく。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3505 研究室 時間については、授業時に提示します。 上記以外でもメール（makoto-n@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師、保健師、社会福祉士、作業療法士、理学療法士」の実務経験を有する講師が実践の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	地域ケア連携の基礎
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	専門領域を超えて互いに学び合うことから、相互理解を深めて、保健医療福祉分野におけるそれぞれの専門職の役割や専門性を尊重する姿勢を身につける。またグループ活動を通して、対人援助における多職種連携・協働の必要性を理解し、多角的なものの見方ができるようになることをねらいとする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対人援助職としての知識・技術を同じキャンパスで共に学ぶ仲間である、という意識をもち、相互に交流することができる。 2. 春セメスターの授業や実習体験を踏まえて、各自が目指す専門職の特徴と役割の概要を自分の言葉で説明できる。 3. 4 年次生や教員のプレゼンテーション、映像学習を通して、多職種連携を必要とする対象や場面、および他学部領域の専門職の役割・特徴について知ることができる。 4. なぜ専門職連携が必要か、および専門職連携をうまく行う上での注意点について考えることができる。

授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>看護学部 : 清水隆裕、寺田康裕 (プレゼンテーション担当) 三輪与志子、小平朋江、遠山大成</p> <p>社会福祉学部 : 篠崎良勝 (プレゼンテーション担当) 水野尚美、佐々木正和</p> <p>国際教育学部 : 内山敏 (プレゼンテーション担当) 太田雅子 (小学校養護教諭/外国人支援 NPO)</p> <p>リハビリテーション学部 : 矢部広樹、栗田洋平 (プレゼンテーション担当) 根地嶋誠、佐野哲也、佐藤綾華</p> <p>【2 日間の集中授業とする】</p> <p>第1～4 回 (第1 日 9 月 24 日火曜日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中グループ (学部混成で1 グループ約 60 名) ごとにオリエンテーション。 2. 小グループ (学部混成で1 グループ約 6 名) での自己紹介。春セメスターの学修等をふまえ、各専門職の役割について感じることを話し合う。 3. 大グループ (学部混成で1 グループ約 120 名) ごとに、各学部の 4 年生 (3 名) から専門職やその学びについてプレゼンテーションを受ける。専門職の連携・協働に関する事例を視聴覚教材から学ぶ。 4. 小グループごとに、4 年生のプレゼンテーションや事例をもとに、専門職の役割や連携について話し合い、まとめの中間レポートを作成・提出する。 <p>第5～8 回 (第2 日 9 月 25 日水曜日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大グループごとに、各学部の教員 (3 名) から専門職の仕事、役割、連携・協働についてプレゼンテーションを受ける。 2. 各学部の教員によるシンポジウムを受け、専門職連携の実際や課題について学びを深める。 3. 小グループに戻り、さらに「専門職連携」についてディスカッションを行い、まとめる。 4. 中グループごとに発表会を行い、各小グループでの 2 日間の学修の結果を発表する。 5. 学んだことを各自が最終レポートにまとめる (授業終了後に作成し、後日提出する)。 <p>#2 日間の集中講義のため、遅刻、欠席、早退は原則として認めない。</p> <p># 第1 日目の学部混成によるグループワークにおいて、所属学部についてメンバーに紹介する時間がある。その際に役立つと思うテキストや資料を、各自で選択し持参すること。</p>
アクティブラーニング	3 学部合同のグループ討議活動である。
授業内の ICT 活用	グループ発表をプレゼンテーションにて実施する。

評価方法	ループリックを用いて、最終レポート 50%、授業態度・参加状況 50%で評価する。 また、小グループごとの中間レポート提出を必須とする。				
課題に対する フィードバック	ディスカッションやグループ発表時に、担当教員からのコメントがある。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	1. 授業前に配布する当科目の連絡事項をよく読み、各自、事前ワークシートを 40 分程度かけて記載する(第 1 日目の授業時に持参する)。 2. 授業後は、配布資料等を見直し、40 分程度かけて最終レポートを作成する。				
オープンエデュケーション の活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：社会福祉学部 研究室：2611 研究室 質問や面談を希望する場合は、メール (yoshikatsu-s@seirei.ac.jp) にてアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」「保健師」「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業 の実施について	なし				

科目名	地域実践アクティブラーニング I
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 年次秋 Semester ～ 2 年次春 Semester 開講
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	地域の中の保健医療福祉教育の大学として、行政機関、NPO 法人、地域の住民組織等と連携し人々が持つ個々の課題、人々が暮らす地域の課題解決のため、テーマを設定して看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部、国際教育学部の学生と教員が、それぞれの特徴を活かし協働して地域活動を行う科目である。学外の多くの人との交流体験により、地域共生社会の意義を学び、連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術の向上を目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域活動を通して、人々を生活者として捉えことができる。 2. 地域のニーズを、体験的に理解することができる。 3. 専門職、NPO 法人、地域の人々と連携し、地域で生活する人々の課題解決のために何が必要か教員と共に検討することができる。 4. 地域共生社会の実現に向けて、自分たちの活動の意義を説明することができる。 5. 連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術を向上させることができる。 6. 学生間の交流を通して、各自の学びを深めることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 矢倉千昭、根地嶋誠、伊藤信寿、藤田さより、黒野智子、氏原恵子、山崎淑恵、長山ひかる、佐藤順子、大場義貴、佐々木正和、鈴木光男、和久田佳代</p> <p><授業内容・テーマ等> ※授業の詳細は「地域ケア連携の基礎」の最終日にお知らせします。 第 1 回 (全体) : ・オリエンテーション 10 月 ・プロジェクトの選択方法や履修方法の説明 ・教員の活動のプレゼンテーションより、学生は自分の参加するプロジェクトを選択する。 ・活動の基本となる考え方として「地域共生社会」についての講話</p> <p>第 2 回: チーム作り、活動計画立案 第 3～4 回: 活動実施① 第 5 回: 活動評価① 第 6～7 回: 活動実施② 第 8 回: 活動評価② 第 9～10 回: 活動実施③ 第 11 回: 活動評価③ 第 12～13 回: 報告会準備 第 14～15 回 (全体): 活動報告会、まとめ 9 月 *最低 3 回は地域に出て活動します</p> <p><SDGs の位置づけ> この授業では、SDGs の「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」を中心に考え、活動します。</p>
アクティブラーニング	○グループワーク、○フィールドワーク、○プレゼンテーション ・ゼミ形式で行われる、演習科目です。
授業内の ICT 活用	最終日の活動報告会は、活動グループで発表し、プレゼンテーションはプロジェクターを使って行います。
評価方法	活動計画書 (20%)、活動内容 (50%)、報告会の内容 (20%)、全体的な取り組み態度 (10%)
課題に対するフィードバック	活動計画作成時、毎回の活動終了後などでフィードバックを行います。

ク						
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	活動計画作成時、活動終了後に各担当教員より提示します。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	オリエンテーション時に、各担当教員より提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園・小学校教諭等」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	地域実践アクティブラーニングⅡ
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 2 年次秋 Semester ～ 3 年次春 Semester 開講
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	地域の中の保健医療福祉教育の大学として、行政機関、NPO 法人、地域の住民組織等と連携し人々が持つ個々の課題、人々が暮らす地域の課題解決のため、テーマを設定して看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部、国際教育学部の学生と教員が、それぞれの特徴を活かし協働して地域活動を行う科目である。学外の多くの人との交流体験により、地域共生社会の意義を学び、連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術の向上を目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域活動を通して、人々を生活者として捉えことができる。 2. 地域のニーズを、体験的に理解することができる。 3. 専門職、NPO 法人、地域の人々と連携し、地域で生活する人々の課題解決のために何が必要か教員と共に検討することができる。 4. 地域共生社会の実現に向けて、自分たちの活動の意義を説明することができる。 5. 連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術を向上させることができる。 6. 学生間の交流を通して、各自の学びを深めることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 矢倉千昭、根地嶋誠、伊藤信寿、藤田さより、黒野智子、氏原恵子、山崎淑恵、長山ひかる、佐藤順子、大場義貴、佐々木正和、鈴木光男、和久田佳代</p> <p><授業内容・テーマ等> ※授業の詳細は「地域ケア連携の基礎」の最終日にお知らせします。 第 1 回 (全体) : ・オリエンテーション 10 月 ・プロジェクトの選択方法や履修方法の説明 ・教員の活動のプレゼンテーションより、学生は自分の参加するプロジェクトを選択する。 ・活動の基本となる考え方として「地域共生社会」についての講話</p> <p>第 2 回: チーム作り、活動計画立案 第 3～4 回: 活動実施① 第 5 回: 活動評価① 第 6～7 回: 活動実施② 第 8 回: 活動評価② 第 9～10 回: 活動実施③ 第 11 回: 活動評価③ 第 12～13 回: 報告会準備 第 14～15 回 (全体): 活動報告会、まとめ 9 月 *最低 3 回は地域に出て活動します</p> <p><SDGs の位置づけ> この授業では、SDGs の「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」を中心に考え、活動します。</p>
アクティブラーニング	○グループワーク、○フィールドワーク、○プレゼンテーション ・ゼミ形式で行われる、演習科目です。
授業内の ICT 活用	最終日の活動報告会は、活動グループで発表し、プレゼンテーションはプロジェクターを使って行います。
評価方法	活動計画書 (20%)、活動内容 (50%)、報告会の内容 (20%)、全体的な取り組み態度 (10%)
課題に対するフィードバック	活動計画作成時、毎回の活動終了後などでフィードバックを行います。

ク						
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	活動計画作成時、活動終了後に各担当教員より提示します。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	オリエンテーション時に、各担当教員より提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園・小学校教諭等」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	地域実践アクティブラーニングⅢ
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 年次秋 Semester ～ 4 年次春 Semester 開講
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	地域の中の保健医療福祉教育の大学として、行政機関、NPO 法人、地域の住民組織等と連携し人々が持つ個々の課題、人々が暮らす地域の課題解決のため、テーマを設定して看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部、国際教育学部の学生と教員が、それぞれの特徴を活かし協働して地域活動を行う科目である。学外の多くの人との交流体験により、地域共生社会の意義を学び、連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術の向上を目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域活動を通して、人々を生活者として捉えことができる。 2. 地域のニーズを、体験的に理解することができる。 3. 専門職、NPO 法人、地域の人々と連携し、地域で生活する人々の課題解決のために何が必要か教員と共に検討することができる。 4. 地域共生社会の実現に向けて、自分たちの活動の意義を説明することができる。 5. 連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術を向上させることができる。 6. 学生間の交流を通して、各自の学びを深めることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 矢倉千昭、根地嶋誠、伊藤信寿、藤田さより、黒野智子、氏原恵子、山崎淑恵、長山ひかる、佐藤順子、大場義貴、佐々木正和、鈴木光男、和久田佳代</p> <p><授業内容・テーマ等> ※授業の詳細は「地域ケア連携の基礎」の最終日にお知らせします。 第 1 回 (全体) : ・オリエンテーション 10 月 ・プロジェクトの選択方法や履修方法の説明 ・教員の活動のプレゼンテーションより、学生は自分の参加するプロジェクトを選択する。 ・活動の基本となる考え方として「地域共生社会」についての講話</p> <p>第 2 回: チーム作り、活動計画立案 第 3～4 回: 活動実施① 第 5 回: 活動評価① 第 6～7 回: 活動実施② 第 8 回: 活動評価② 第 9～10 回: 活動実施③ 第 11 回: 活動評価③ 第 12～13 回: 報告会準備 第 14～15 回 (全体): 活動報告会、まとめ 9 月 *最低 3 回は地域に出て活動します</p> <p><SDGs の位置づけ> この授業では、SDGs の「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」を中心に考え、活動します。</p>
アクティブラーニング	○グループワーク、○フィールドワーク、○プレゼンテーション ・ゼミ形式で行われる、演習科目です。
授業内の ICT 活用	最終日の活動報告会は、活動グループで発表し、プレゼンテーションはプロジェクターを使って行います。
評価方法	活動計画書 (20%)、活動内容 (50%)、報告会の内容 (20%)、全体的な取り組み態度 (10%)
課題に対するフィードバック	活動計画作成時、毎回の活動終了後などでフィードバックを行います。

ク						
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	活動計画作成時、活動終了後に各担当教員より提示します。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	オリエンテーション時に、各担当教員より提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園・小学校教諭等」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	ボランティア論				
科目責任者	福田 俊子				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 春				
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	現代社会において、その役割が大きく期待されているボランティアについて、その理念や原則、発展過程、また活動に参加することの意義や目的、現状、近年の議論等について学ぶ。そしてその学びを踏まえてボランティア観を身につけ、ボランティア活動に主体的に参加することを目指す。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの基礎概念について理解できる 2. ボランティアに参加することの意義、目的について自覚できる 3. ボランティアの活動分野や現状について理解できる 4. ボランティア活動への関心、主体的な参加意欲を高める 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション、初回アンケート ボランティアの語源、我が国におけるボランティア活動の現状</p> <p>第2回：本科目履修者のボランティア活動の実態 ボランティア活動が有する性格、グループ討議 「ボランティアらしさとは？」</p> <p>第3回：ボランティアを支える理念、定義</p> <p>第4回：ボランティアの発展過程</p> <p>第5回：グループ討議 「24 時間テレビを考える」</p> <p>第6回：ボランティア受け入れ側の考え ゲストスピーカー 未定</p> <p>第7回：現代社会におけるボランティアの意義</p> <p>第8回：ボランティア活動に参加するために—態度とルール— 聖隷クリストファー大学ボランティアセンターの役割と実際</p>				
アクティブラーニング	グループ討議などを取り入れる。				
授業内の ICT 活用	WebClass などを利用し、履修者のボランティアに関する意見を確認する双方向型授業を実施する。				
評価方法	授業への参加態度 30%、レポート 70% レポートはルーブリックを用いて評価する。				
課題に対するフィードバック	グループ討議等の結果やリアクションペーパーに対してフィードバックする。				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	下記参照				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
ボランティアのすすめ	岡本 栄一	ミネルヴァ書房	2400	9784623042999	
災害ボランティア入門	山本 克彦	ミネルヴァ書房	2500	9.7846230805e+12	
事前・事後学修	<p><事前学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業には、アンケート調査を実施するので必ず回答すること。 ・第5回授業には、事前に配布した資料に目を通して、事前課題に取り組むこと。 <p><事後学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、事後学修課題を提示するので期日までにWebClasseに入力すること。 <p>(事前・事後学修 40分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	第5回の授業では、TED (Technology Entertainment Design) のカンファレンスを使用する。				
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。メールアドレスは、toshiko-f@seirei.ac.jp オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	特になし。				

科目名	ボランティア演習				
科目責任者	栗田 洋平				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋semester				
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	<p>「ボランティアとは何か」を理解するために、実際にボランティア活動を体験して、そこから自分の生き方と社会の在り方を考える。</p> <p>本科目は、学生のボランティア活動を推進する目的から、ボランティア活動に対して「単位」の認定を行うものであり、認定対象となるボランティア活動とは、無償の社会福祉、社会貢献活動をさす。</p>				
到達目標	ボランティア活動を実際に体験し、ボランティア論で学んだ理論を振り返り、自分の活動や他の履修者の活動報告を通して社会と人間について学ぶとともに、生涯に亘るボランティア活動の精神を身につける。				
授業計画	<p>【担当教員名】 リハビリテーション学部：栗田洋平，社会福祉学部：鈴木文子（佐藤順子），国際教育学部：鈴木光男，看護学部：太田知実</p> <p>【履修・ボランティア活動に関する説明会およびオリエンテーション】 本科履修者は、4月の「ボランティア演習説明会」および10月の「履修に関するオリエンテーション」（必修）に参加し、本科目の意義、目的、単位認定の方法・過程について理解、把握してほしい。 特に、「ボランティア論」未履修者およびボランティア未経験者は、オリエンテーション時に説明するボランティア活動を行う上での心構えや注意すべき点などの理解に努めること。また、ボランティアに関する自主学習や（活動先の情報等の）事前確認など、実際にボランティア活動を行う上で必要となる準備作業を十分に行うこと。</p> <p>【単位認定】 単位認定希望者（30時間・5日間以上※1のボランティア活動に対して認定）は、次の手続きを踏む。 ①10月のオリエンテーションに必ず出席する。社会福祉施設、社会福祉協議会、その他の社会福祉活動を行う団体等においてボランティアを行う。 ②既に行ったボランティア活動実績※2を証明するための「ボランティア活動記録簿」※3を11月末ごろの指定日までに提出する。 ③11月末ごろの指定日までに「ボランティア活動報告書」を提出する。 ④ボランティア活動の内容を「ボランティア活動報告会」において報告する。 ※1 遠方での災害ボランティアに関しては、移動日も活動日に算定可能。 ※2 履修登録以前の実績（本学入学後）であっても、活動実績を証明できれば有効。 ※3 活動の内容、日付、時間等を記載し、主宰者等の証明印をもらうための様式。</p>				
アクティブラーニング	自らボランティア活動を探し、参加することで、ボランティア活動に対する能動的な学習を行います。				
授業内の ICT 活用	特になし				
評価方法	10月の「オリエンテーション」の出席、「ボランティア活動記録簿」および「活動報告書」の提出、「ボランティア活動報告会」での報告・参加状況により、単位認定の可否を判断します。				
課題に対するフィードバック	ボランティア活動報告会にて口頭でフィードバックします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	オリエンテーション時に資料を配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	ボランティア活動を行う上での心構えや注意すべき点を理解するために、自主学習や（活動先の情報等の）事前確認などをしてください。目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	特になし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 栗田洋平 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（yohei-k@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	特になし				
メディア授業の実施について	必要に応じて対応します				

科目名	大学間交流授業（共同授業）					
科目責任者	聖隸太郎					
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋					
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎					
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。					
科目概要	<p>大学間交流授業は、ふじのくに地域・大学コンソーシアム西部地域連携事業実施委員会主催の共同授業です。</p> <p>静岡県西部地域の大学が協力し、統一テーマのもとに授業を行います。参加する大学の講師陣がそれぞれの特徴を生かし、オムニバス形式の講義を展開します。</p> <p>この大学間交流授業を履修し、修得した単位は本学の単位として認定されます。ふじのくに地域・大学コンソーシアムのホームページをご覧ください。</p>					
到達目標	－					
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>履修希望者は、2024年度春 semester中に教務事務センターから公表する募集要項等を確認してください。ふじのくに地域・大学コンソーシアム西部地域連携事業実施委員会への応募を行わない場合、秋 semesterへの履修登録ができませんのでご注意ください。</p>					
アクティブラーニング	－					
授業内の ICT 活用	－					
評価方法	毎回の試験やレポートが課せられます。					
課題に対するフィードバック	－					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	－					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	－					
オープンエデュケーションの活用	－					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	－					
メディア授業の実施について	－					

科目名	地域ケア連携演習				
科目責任者	藤田 さより				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 看護学部：専門 社会福祉学部：専門 リハビリテーション学部：専門基礎				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	これまでの学習や経験を再認識し活用して、他学部学生とともに事例検討を行い、対人援助における地域ケア連携・協働の実際を体験し、その意義と実践方法について理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの体験(講義・演習・実習など)から、地域ケア連携・協働における各自の役割やその必要性、重要性を自分の言葉で語り、他者と共有することができる。 2. グループワークにおいて事例を作成し、対象者の視点から連携・協働における専門職者や住民等の役割を考えることができる。 3. 各グループの発表を通して、多面的な視点から地域ケア連携・協働の意義、およびその実践方法について考察しまとめることができる。 				
授業計画	<p><担当教員> 看護学部：神崎江利子，松本有希 社会福祉学部：大場義貴，小畑美穂 国際教育学部：福重浩之 リハビリテーション学部：藤田さより，吉本好延，黒崎芳子</p> <p><授業内容・テーマ等> 第 1・2 回 (1 日目午前)：全体講義、オリエンテーション ・各自の体験 (講義・演習・実習など) から地域ケア連携を考える ・各学部学生 (複数名を選出) のプレゼンテーションとディスカッション 第 3・4 回 (1 日目午後)：グループワーク 第 5～7 回 (2 日目午前)：グループワーク 第 8～9 回 (2 日目午後)：事例についての中間報告会 第 10～12 回 (3 日目)：グループワーク ・事例のアセスメントに基づく援助計画の検討 ・発表の準備 第 13～15 回 (4 日目)：全体報告会・ロールプレイ等による事例・学びの報告</p>				
アクティブラーニング	本科目では、PBL、プレゼンテーションを取り入れて授業を展開する。				
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。				
評価方法	発表・発言等の平常点 40%・レポート 60% <レポート> ・テーマ：「専門職連携・協働の意義、およびその実践について」 ・様式等：A4 用紙 1800～2000 文字程度 ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。				
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	特になし				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p><事前学修> 第2～12回では、指定された事前課題を準備する。 これまでの学習・実習を振り返り各自の専門職の役割や機能について考えておく。 目安時間 40分。</p>				
オープンエデュケーションの活用	特になし。				
オフィスアワー	科目責任者は、リハビリテーション学部作業療法学科の所属 研究室：3515 研究室 オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師・ケアワーカー・ソーシャルワーカー・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士，小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	特になし。				